



ねえ、壮太
昨日貸したMD
もう聴いた？

いやまだ聞いてない
すぐ返さないと
ダメか？

そうじゃ
ないけど……

あーもう、いいや！
じゃあさ、壮太



あたし
あんたに――

あいつとの
何気ないやり取りを
今でも鮮明に覚えている

もう一年
まだ一年

どっち
なんだろう



ふあゝ
もう夕方か
おはよう、かなで奏

んゝ



……太

ちよつと
そなた
壮太！

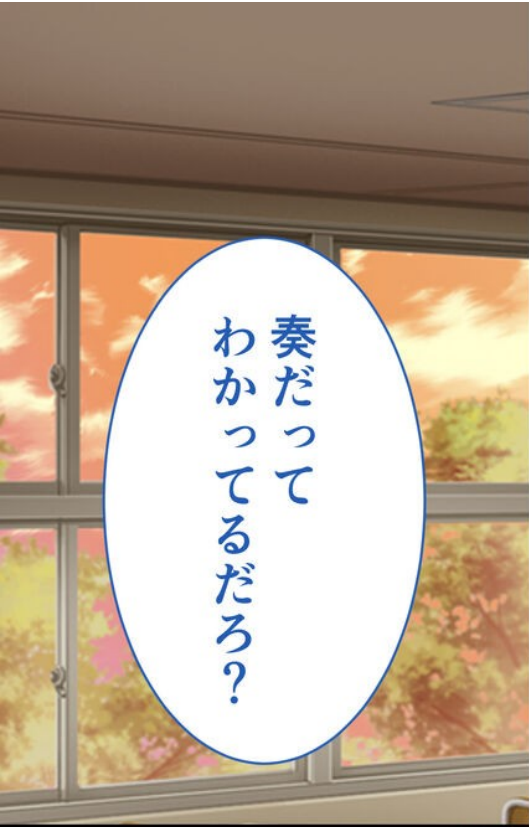


おはよう
じゃないわよ

授業もまともに
受けないで

まあ別に
いいじゃん

よくない

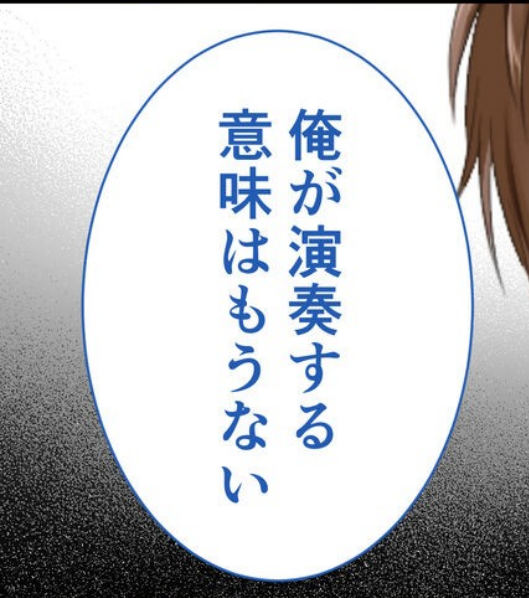


奏だつて
わかつてるだろ？



ねえ今日こそ
音楽部に
顔出してよ…

もう一年だよ…



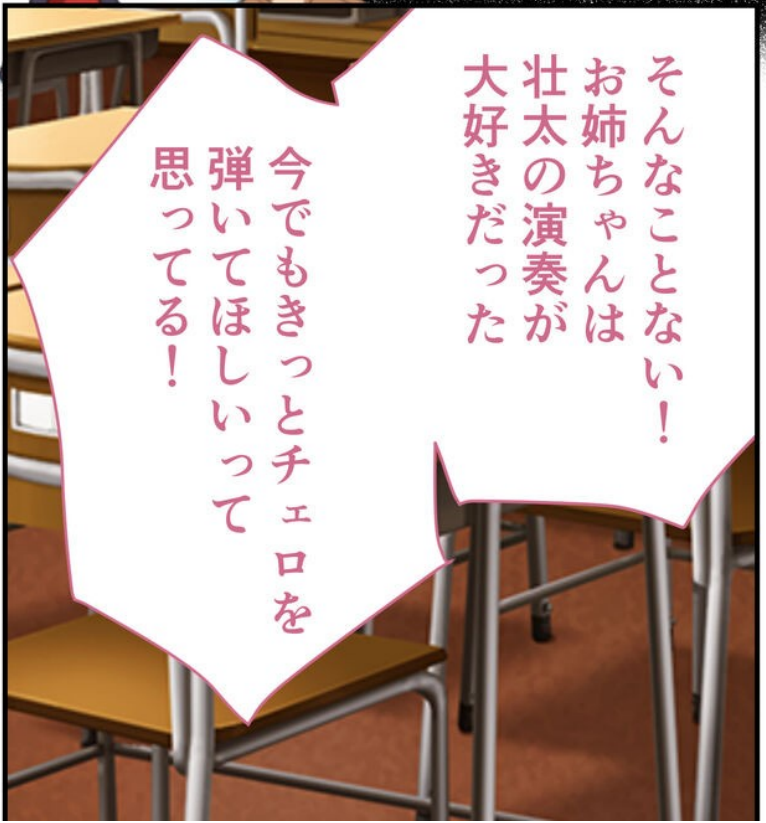
俺が演奏する
意味はもうない

なつめ
奏はもう
いない



奏がそう
言ってたのか？

っ
……



そんなことない！
お姉ちゃんは
壮太の演奏が
大好きだった

今でもきつとチェロを
弾いてほしいって
思ってる！



棗が死んだ
あの日



俺たち
カルテットは
解散したんだ



壮太の
馬鹿……



俺たち
カルテットは



ヴィオラ担当の
紅羽^{くれは}



バイオリン担当の
ゆいか



チエロ担当の俺

そして
ピアノ担当の棗の
四人で組んでいた



学生ながら
CDを
出すほどの
人気で

それを
引張っていたのが
棗だった



だが一年前
棗は交通事故で

突然この世を
去ってしまった



棗が死んだ
あの日から

俺の時計は
止まったままだ



はま
ま
って!!
紅羽っ!!
何でココに
いるんだよっ!

お兄ちゃん♪
お疲れ様



はあ今日は
疲れたな……



お、お前なあ

ハア

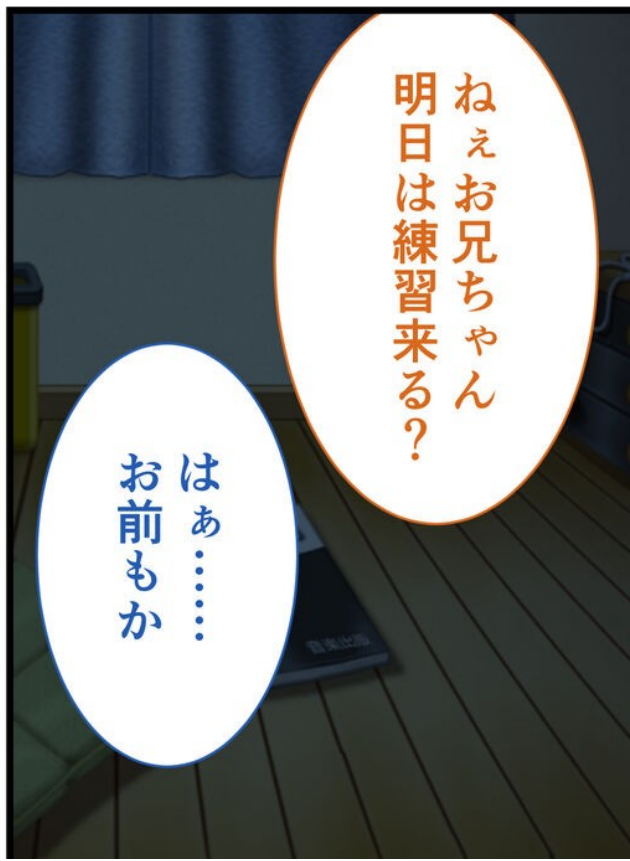
また男子寮に
もぐりこん
じやった

えへへ
お兄ちゃんと
一緒に寝たくて



…奏ちゃん?

ああ



ねえお兄ちゃん
明日は練習来る?

はあ……
お前もか

そっか…

…ねえ！
パパとママ
いつ帰って
来るかな？

当分無理だろ
借金の
取り立てって
しつこいらしいし

大体紅羽の
お母さんとウチの
親父が再婚したのだから
いきなりだったし

あの人たちに
計画的に
返済ができるとは思えないな

じゃあ当分は
家族二人きりだね

ああ

ねえ…
お兄ちゃん

モウッ

うわっ!?
な、なににしてるんだよ
紅羽っ

あのね…今日ね
女の子の日で…
おっぱいが張ってて
痛いの

ぬ
ぽ

だから
お兄ちゃん…

おっぱい
もんで…

ま、またかよ……
仕方ないな

……っ

んう……

お兄ちゃん……

ん
ん

お
っぱい



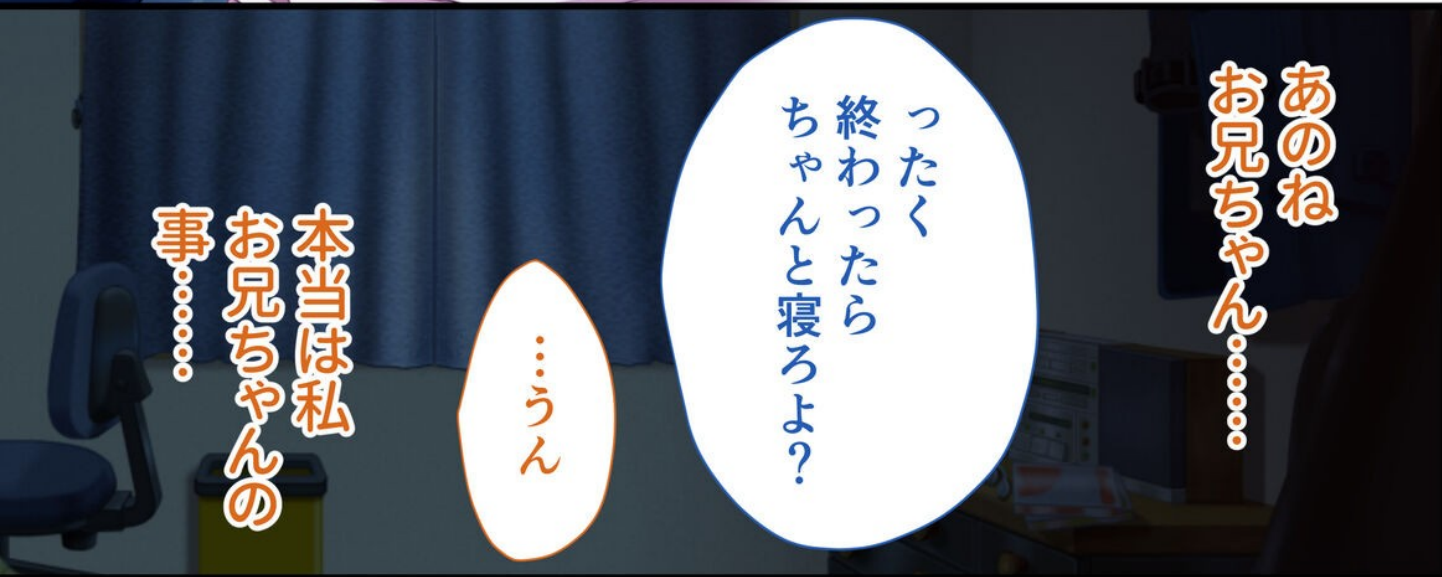
だって……
お兄ちゃんの手
気持ちいいんだもん



んう……
気持ちいいよ……

お兄ちゃん……

く、紅羽
そんな声
出すなよ……

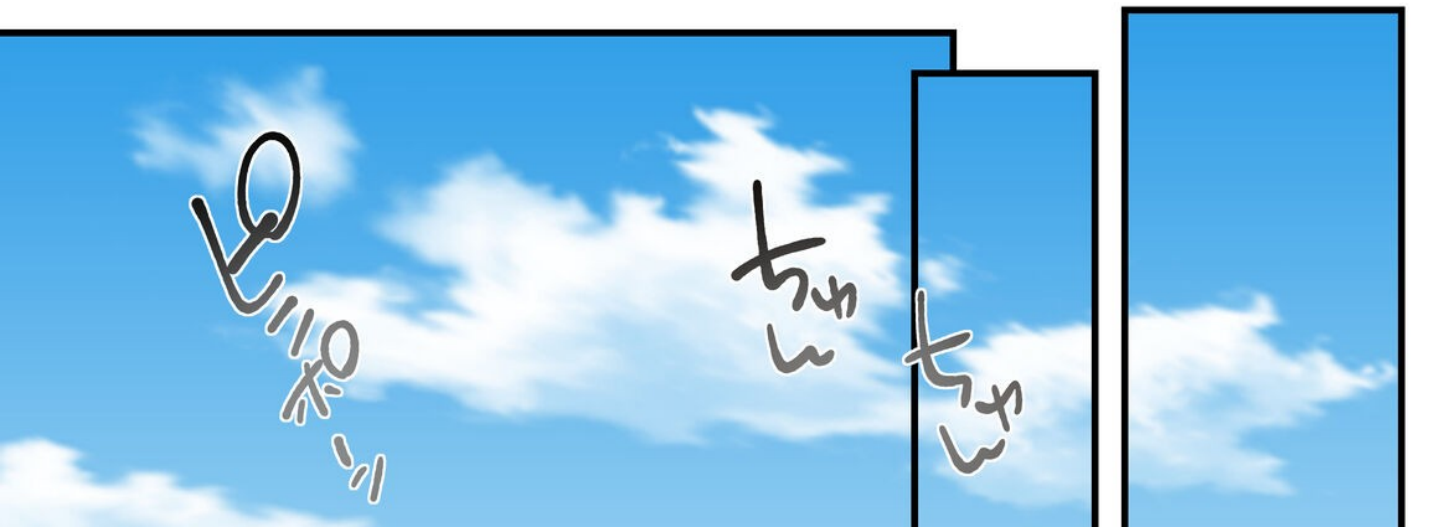


あのね
お兄ちゃん……

まったく
終わったら
ちゃんと寝ろよ？

……うん

本当は私
お兄ちゃんの
事……



ひゅん
ひゅん
ひゅん

ちゅん
ちゅん

ガッ

よ、まだ寝てた？

ふああ、ゆいか
どうした？
今日土曜日だぞ？

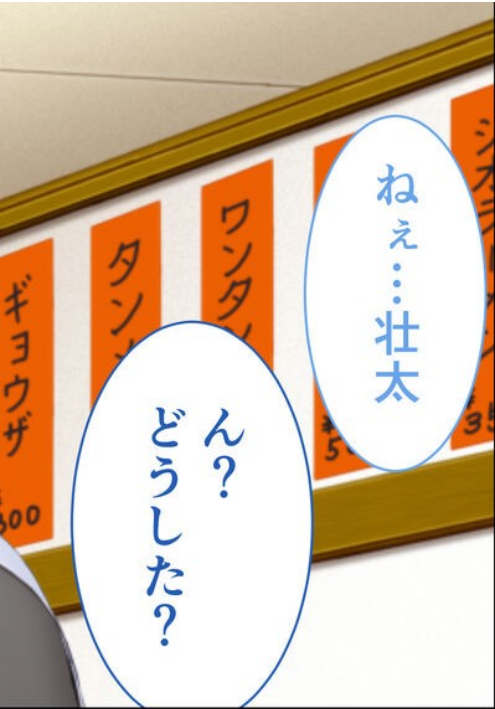
いあ
紅羽のやつはとっくに
練習行ったぞ
お前も行かないのか？

今日は壮太と遊ぶ
もうお昼だし
ご飯こ

ん？
ああ、わかった
じゃあちよつと
着替えてくる

いただきます

いただきます



ん?
どうした?



うっ!
一言余計だぞ!

壮太もっと
食べた方がいい
じゃないと
大きくなれない



.....
組まない



カルテット
もう一度
組まない?



はく
食った
食った!



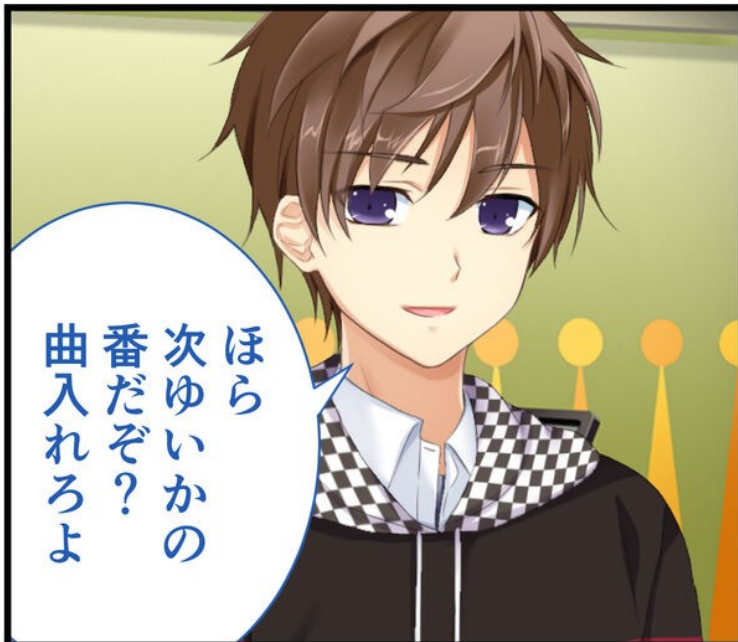
.....
だよね



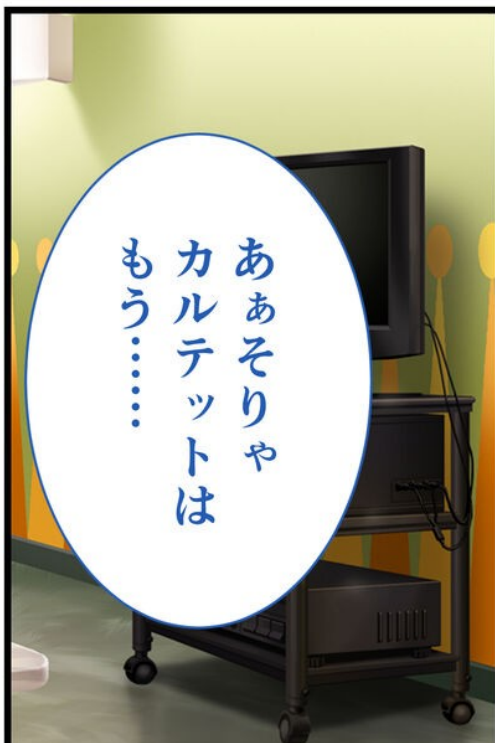
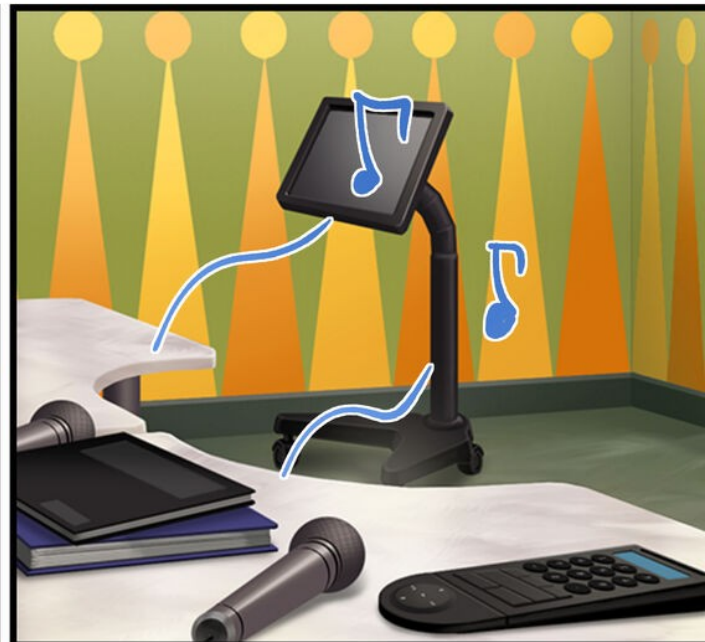
で、この後
どうする？

カラオケ行こう

お！
いいな！
行くか！



ほら
次ゆいかの
番だぞ？
曲入れろよ



ああそりゃ
カルテットは
もう……



…え？

やっぱり気持ちは
変わらない？



なっ、お前
何言って……



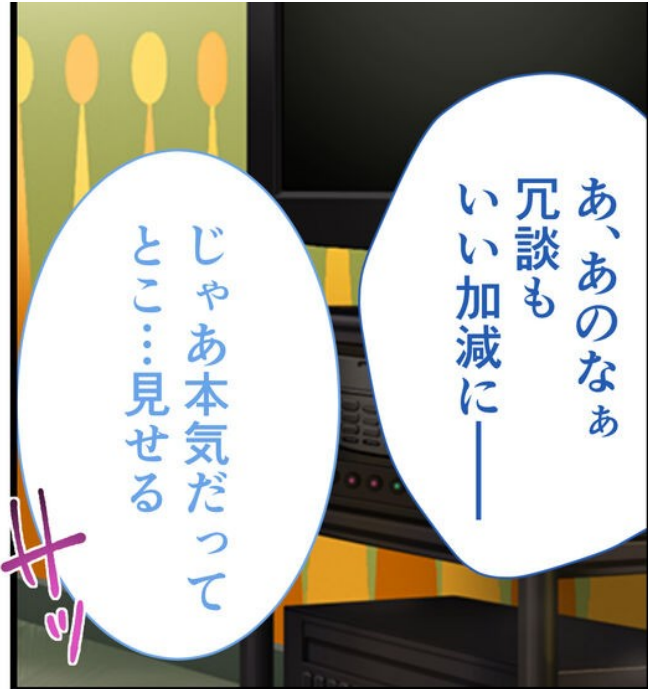
まだ棗の事が
好き？



私じゃだめ？



ねえ壮太……



壮太
好き

お前
何言って……

あ、あのなあ
冗談も
いい加減に——

じゃあ本気だつて
とこ…見せる

ハッ



うわっ!?!
こらっ!
お前なにやって……

だから
本気だつてトコ
見せる

ちゅん



これで
本気だって

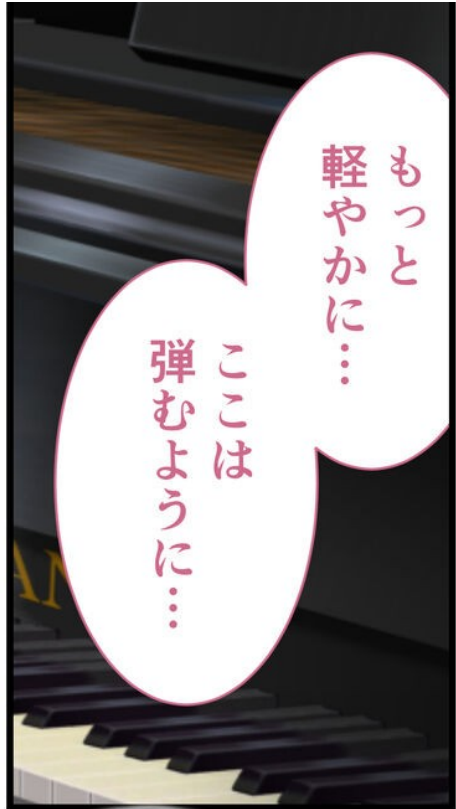
分かった？

……ああ
分かったよ……



あっ…

ツツツツツ



ここは
弾むように…

もっと
軽やかに…



お姉ちゃんの
音には
程遠いわね



んう…



私が
お姉ちゃんの
代わりに
なれれば
いいのに…



壮太……

あつ……
ソコ……
ダメ……



気持ちいい……っ

壮太っ……
あああつ……



んううっああつ
ダメツ

イクツ……
あああつ——



ニクニク
ニクニク
ニクニク

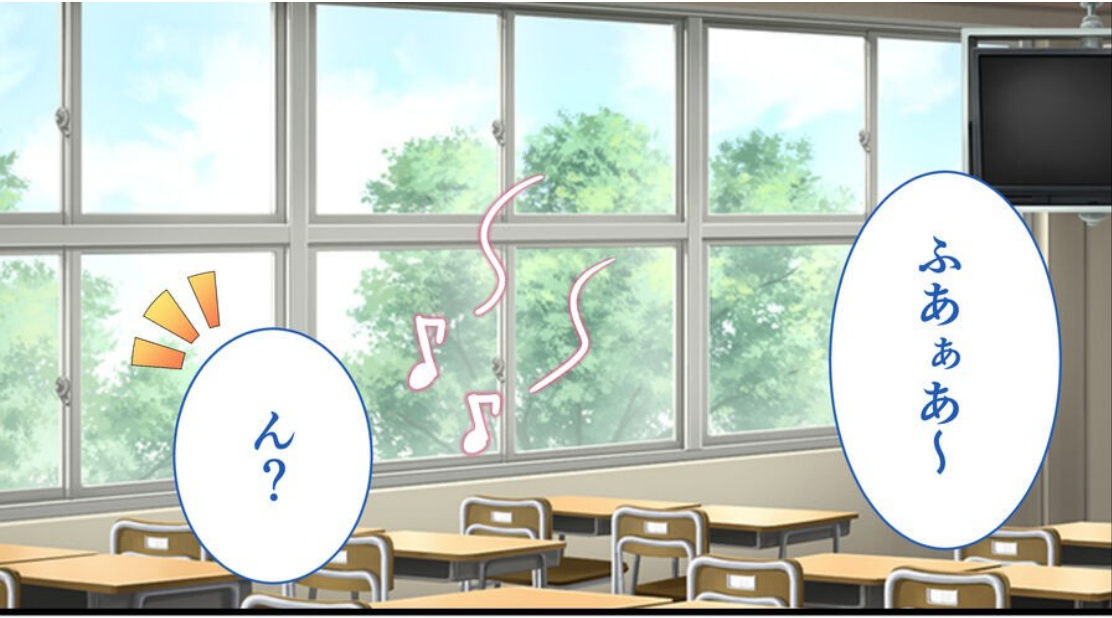
ハッ、ハッ、ハッ
ハッ、ハッ、ハッ
ハッ、ハッ、ハッ

壮太……

好き……

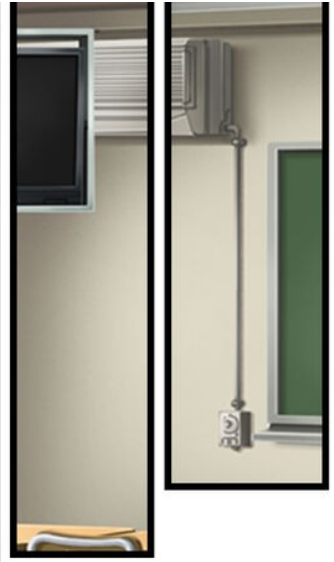
イキイキ
イキイキ
イキイキ

つづく



ん？

ふあああ〜



壮太 そなた
お願い……

もう一度
あなたの音色を
聞かせて――



この音 なつめ
棗にそっくりだ

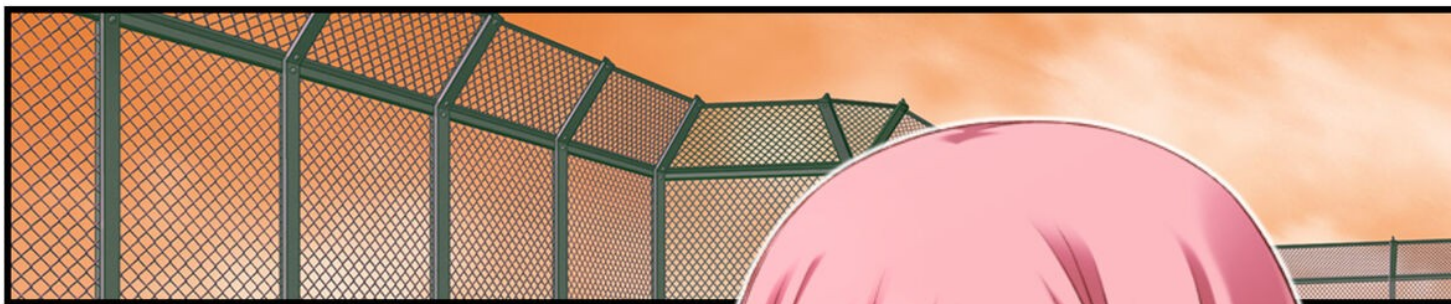
そんな
音出されても
俺は……



よう……

あっ……

今日はどこか
寄ってから
帰るかな



待ってっ！

その事
なんだけど——

あゝ……
えっと……



あの……壮太
昨日の……



答え聞くの
怖くなつた
情けない…

ゆいか……



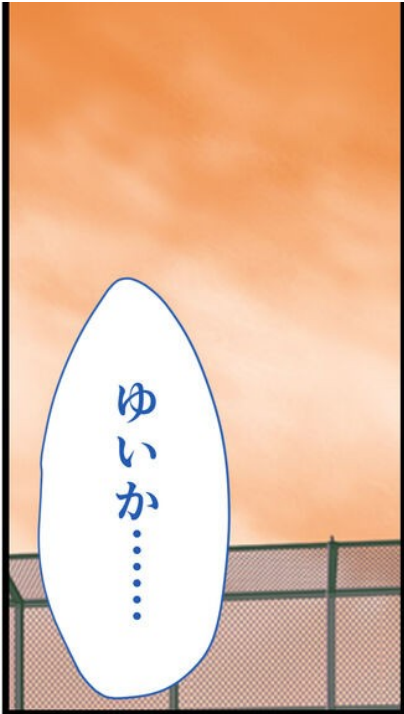
やっぱ
言わないで……
ううっ

おっおい
どうした!?



壮太……?

もう泣くなよ……
俺……その
嬉しかったから……



ゆいか……



まだ……その
答えをはっきり
出せないけど……

うん
それでいい……
今はそれで
十分



ああ……
まって……

嫌か？



違う……だって
こんな場所で……？

もう部活も
終わってるし
誰も来ないよ

そう……かな？



ひゃああああっ!?

待って壮太…



そんなところ……
舐めちゃダメっ……

何で？



何でって……
ダメなものは
ダメで……
ひゃあああああっ!

この前の
お返し……
だから……

ぐんぐん
ぐんぐん

うん…
初めては
壮太にあげたい…
から

じゃあ…
いくぞ…
力抜いて

ん…

ひゃうううううっ!!
んっんうううううっ!!

いっ
おっ

ごめんっ
やっぱり
止めるかっ?

大丈夫…
だから
もっと…

たっらよ…

…我慢
できなかつたら
言えよ?

うん……

あっああああっ!
ひゃんうううっ!?

ズズズズ

もう少しっ……で

入ったっ!

あぁ……
壮太のが……
私のナカにある……

壮太と
繋がってる……

大丈夫か?

うん……
入ったら
そんなに
痛くない……

ねえ動いて
壮太……

うん…
痛かったら
ちゃんと見えよ？

壮太のっ…
こすれてるっ
私のナカでっ

ググググッ

あああっ！

ヤバいっ
何だこれっ
気持ちよすぎるっ

グググッ

グググッ

ズッ
ズッ

私もっ…
気持ちいいっ…
壮太の感じる
いっぱいっ！

ゆいっかっ
俺、もうっ！

ズッ
ズッ

壮太っ…いいよ
このままナカにっ！

ズッ
ズッ



壮太ので...
お腹いっぱい...

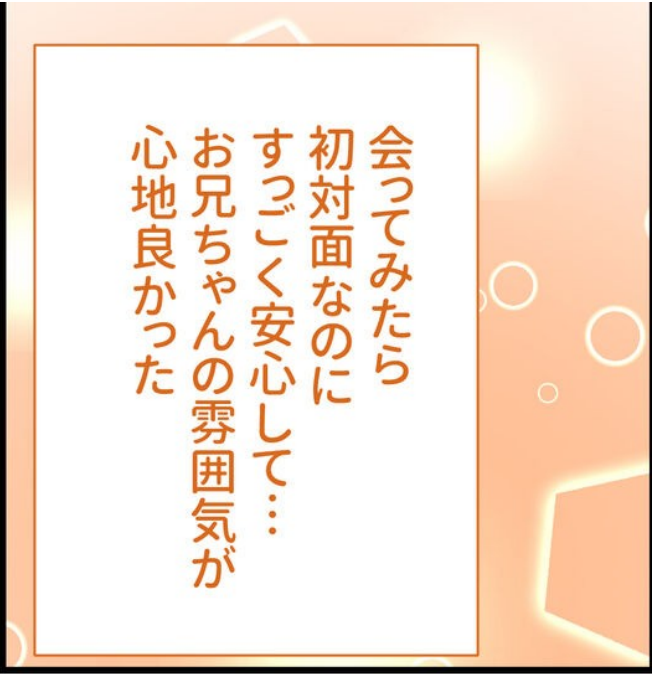
あー





新しいお兄ちゃんが
できるよって
ママに言われて

最初は
戸惑ったけど



会ってみたら
初対面なのに
すごく安心して…
お兄ちゃんの雰囲気
心地良かった



初めて会った
その日から
私はずっと
お兄ちゃんの事が――



お兄ちゃん
まだ寝てるの？



お兄ちゃん



起きて……



紅羽……？

んっ……？

お前っ！
何してっ……

ハッ



あのね
お兄ちゃん……

今までずっと
隠してたん
だけど

私…
お兄ちゃんの
事が

好き

え…？
な、何言って…
俺らは兄妹で

知ってる！
でも血は
繋がってないし
好きなものは
好きなんだもん！

私…本当はずっと
言いたかった

でもお兄ちゃんが
棗ちゃんの事
好きだって
知ってたから

だけどね…

ずっと
伝えないのは

やっぱり
つらいよ…

紅羽…

お兄ちゃんが
少しでも

紅羽の事を
見てくれたら
それでいいの…

だから……

紅羽…
やっぱり
こんな事…

お兄ちゃん
は
何も
しな
くて
いい
から

うわっ
何これ!?

や、やっぱり
無理するなよ

だ、大丈夫だもん!

こう…かな？
ちゅぷぷぷ

うっいいぞ…
紅羽
気持ちいいっ

ちゅっ
ちゅっ

お兄ちゃんの
先っぽから
なんか
出てきてるよ

ちゅるるるっ
ちゅっ、ちゅっ

ううっ
紅羽っソレッ
ヤバいっ！

ちゅるる
ちゅっ

うむ

これえ…？
ちゅくくくくっ
ちゅぐぐっ！

うぐっ！
紅羽っ
顔離してっ！

ん…？
なんれえ…？
ちゅるるるるるっ

うあぁっ！

ちゅっ
ちゅっ

ちゅるる



これが…
お兄ちゃん
の白いおしっこ
なんだね……

レコレコ

レコレコ

んっ



はあ…
俺は一体
何を
やってんだよ……



いや…まてまて
なんで奏の事を
思い出すんだよ…

あおや
青谷！



ゆいかとも
紅羽ともあんなこと
しちゃうなんて…

俺って
もしかして
クソ野郎
なんじゃ……



それに
かなで
奏にだつて——



え？
はい…

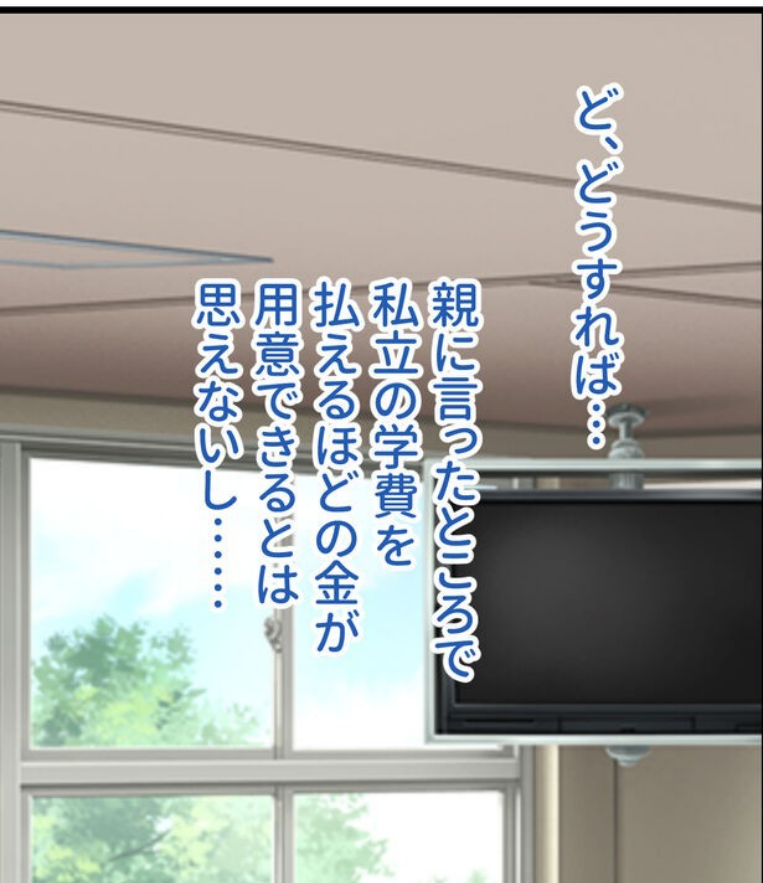


ちよつと
いいか？

ちよつとよかった
お前に話が
あつてな



特待生の
取り消し…
ですか!?

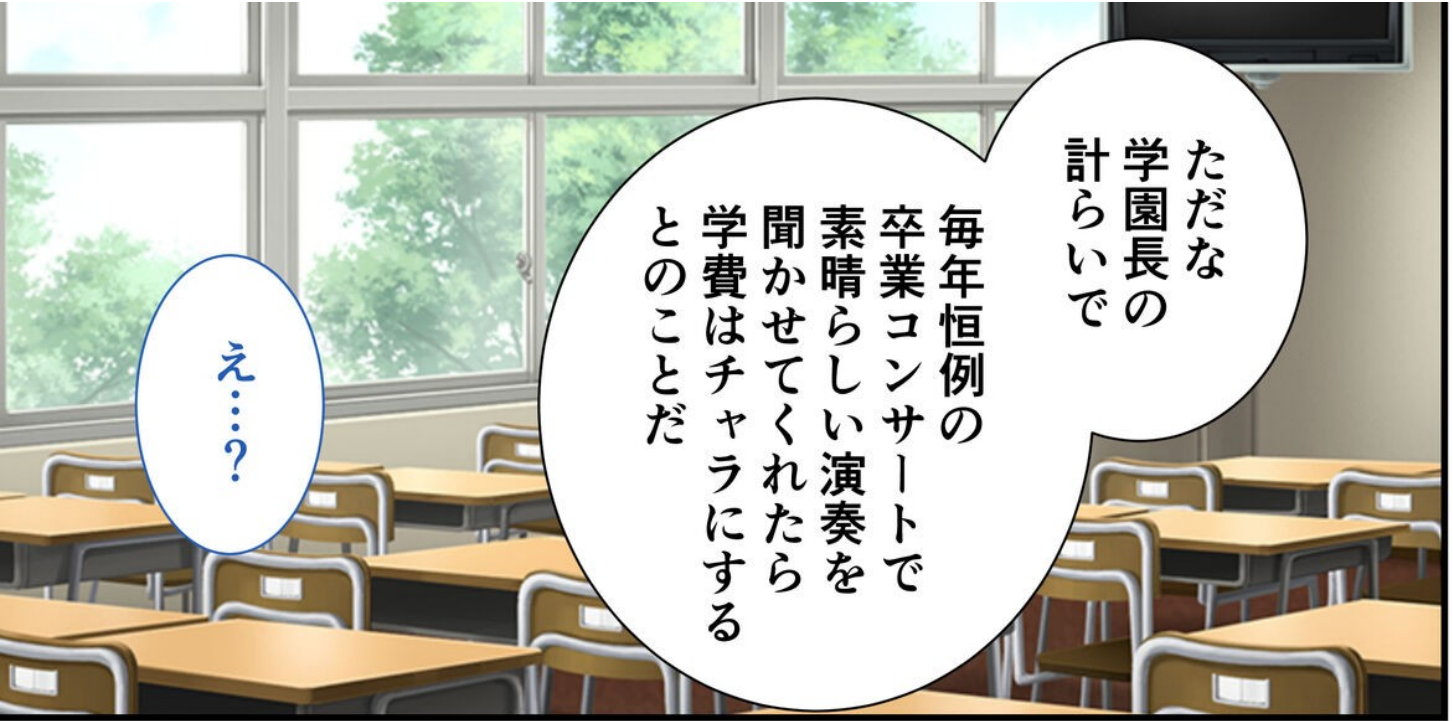


ど、どつすれば…
親に言ったとこで
私立の学費を
払えるほどの金が
用意できるとは
思えないし…



ああ、青谷はずつと
部活にも顔を出して
いないみたいだし
このままだと
今までの学費免除分も
取り消されるぞ

えっ!?



ただな
学園長の
計らいで

毎年恒例の
卒業コンサートで
素晴らしい演奏を
聞かせてくれたら
学費はチャラにする
とのことだ

え……？



秦……
俺は



青谷
お前の演奏を

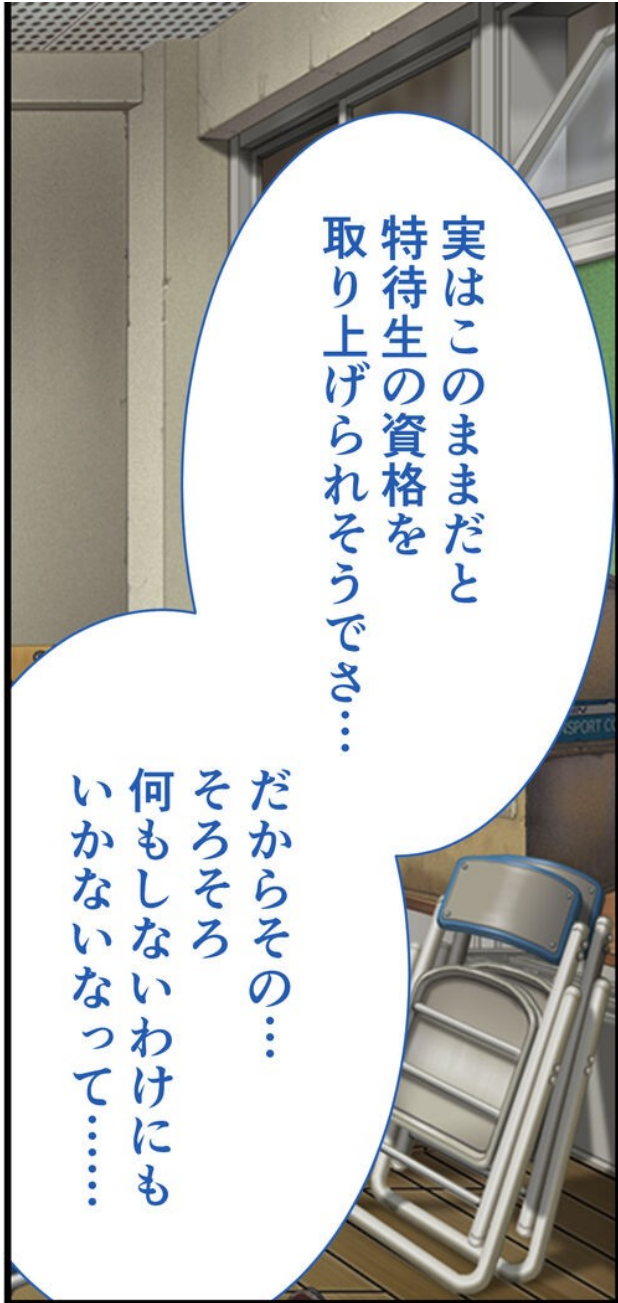
この学園の皆が
待ってるんだぞ



また音楽を
やっていいの？

つづく



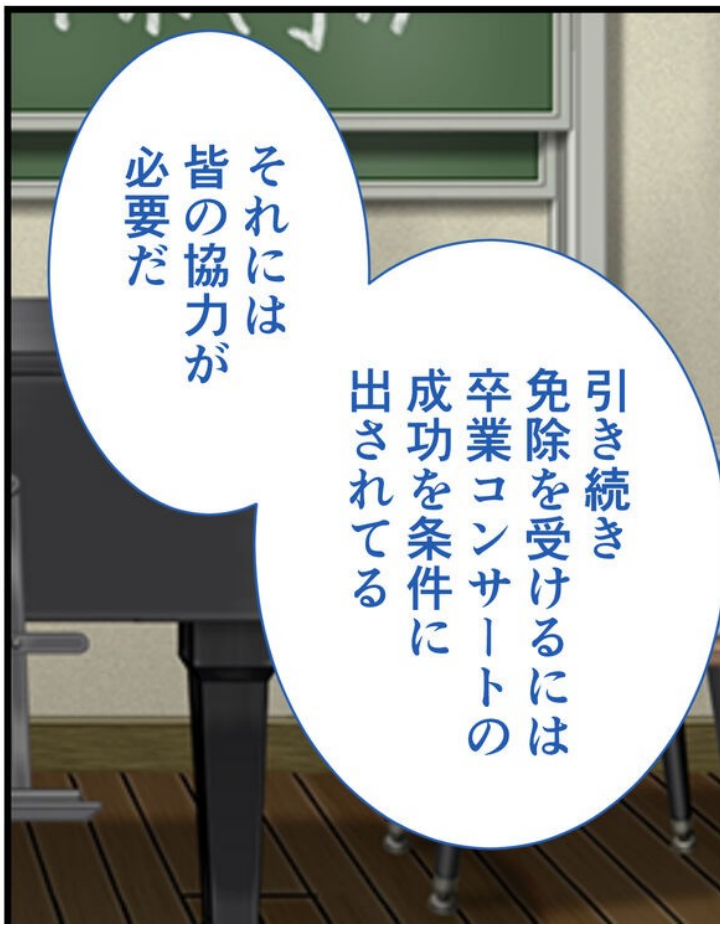


実はこのままだと
特待生の資格を
取り上げられそうだし…

だからその…
そろそろ
何もしないわけにも
いかないなって…



どうして



勝手だって
わかってる…
その…ごめん

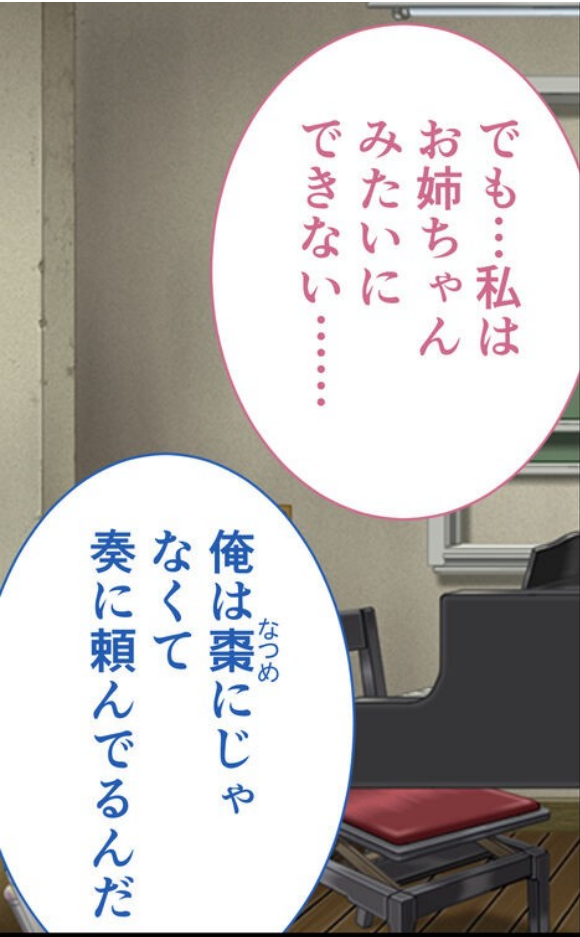
それには
皆の協力が
必要だ

引き続き
免除を受けるには
卒業コンサートの
成功を条件に
出されてる



壮太…





でも…私は
お姉ちゃん
みたいにな
できない……

えっ!?

かなで
奏…お前の力も
貸してくれ

俺は奏なつめにじゃ
なくて
奏に頼んでるんだ



奏の
代わりじゃなくて
奏に弾いて
欲しいんだ

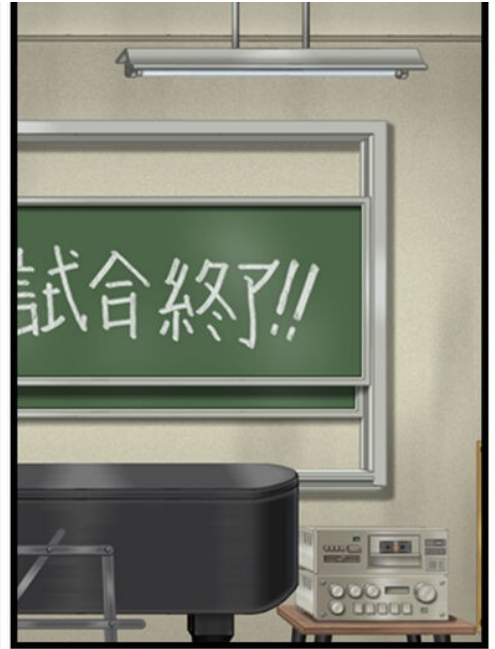
壮太……

…分かった
私なりに
頑張ってみるわ



やった!
新生カルテットの
誕生だね!

祝、結成!





一年ぶりの
壮太の音色……

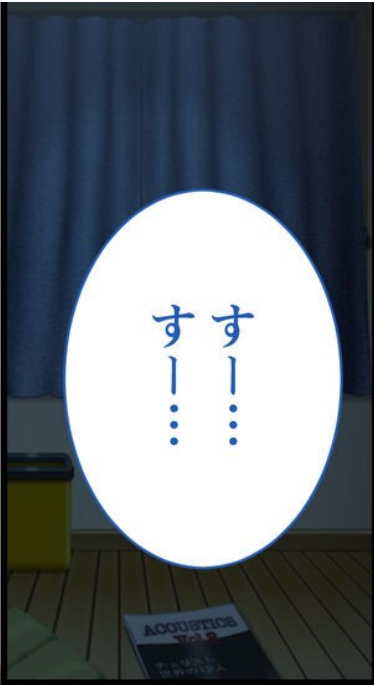
優しくて
力強い……



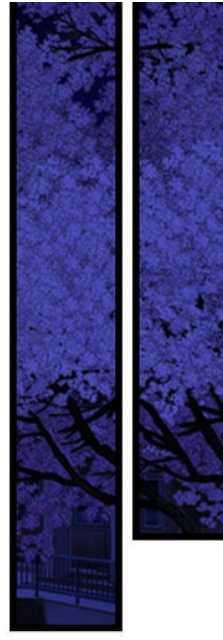
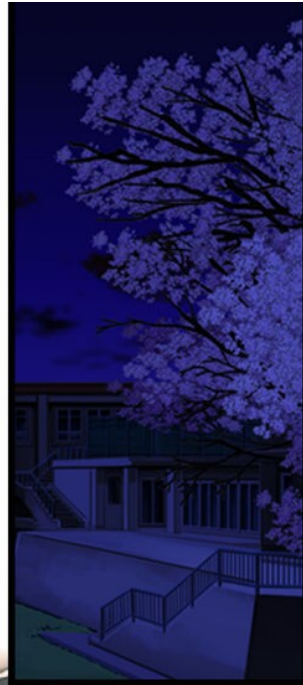


壮太…
ねえ壮太…

ん？
棗…？



すー…
すー…



あのね
壮太…

奏の事
よろしくね

あの子
私のせい
で
きつと



夢か…
でも…奏の事
よろしくって…

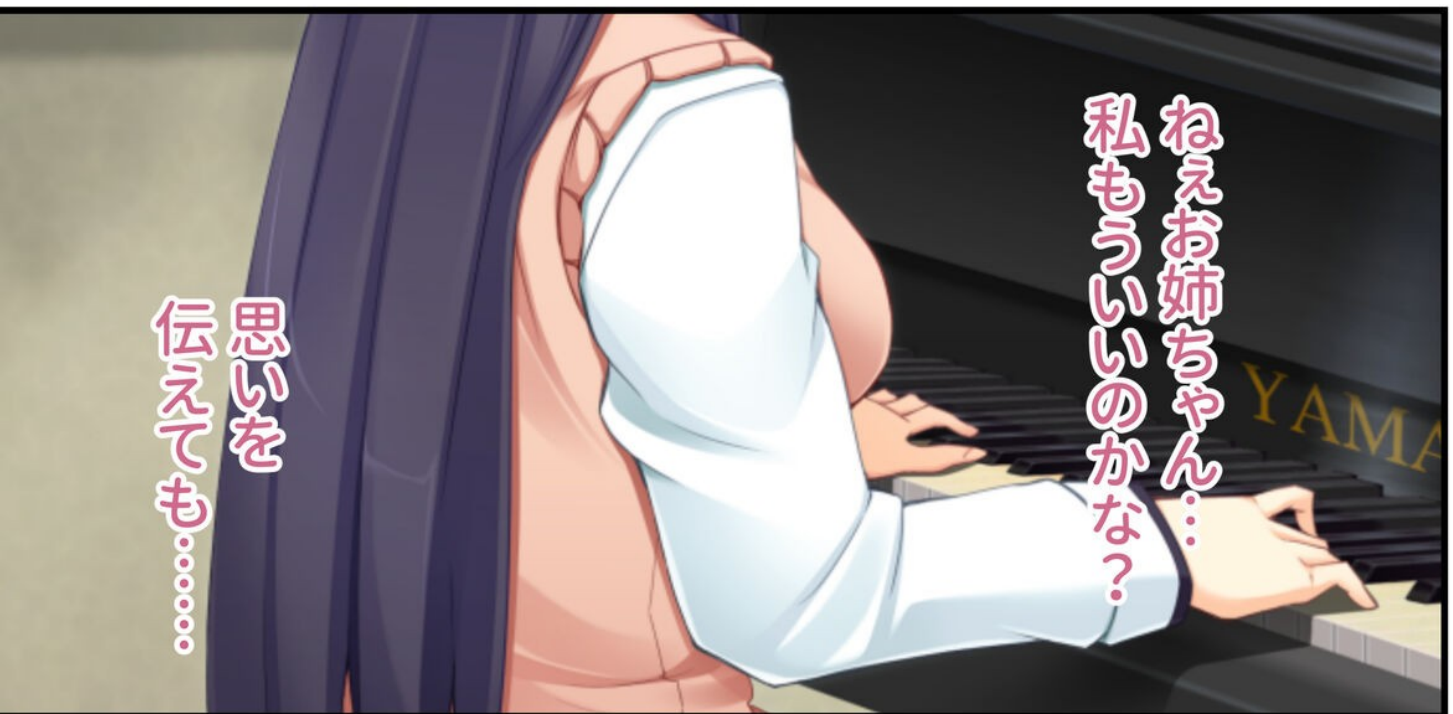
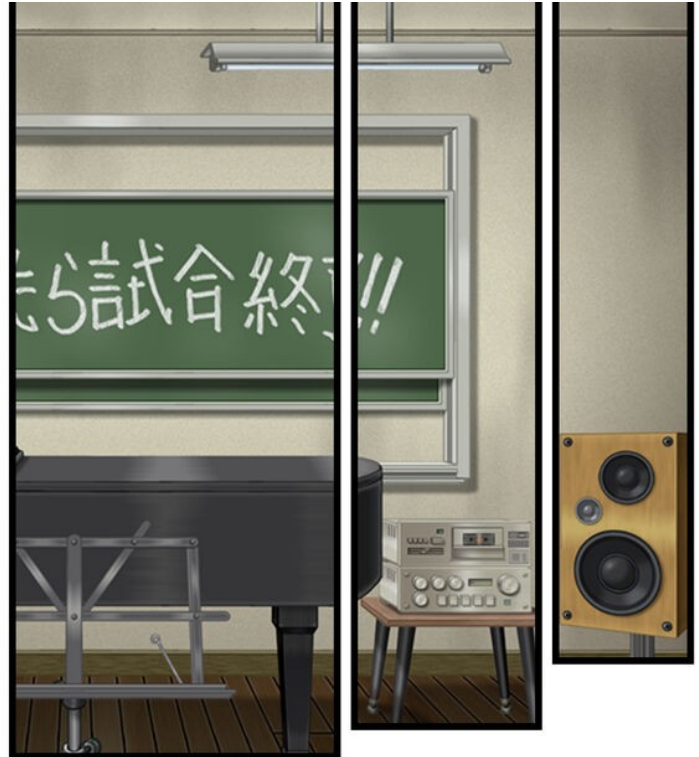
棗はほんと
肝心なことは
いつも言うて
くれないんだよな



棗っ！

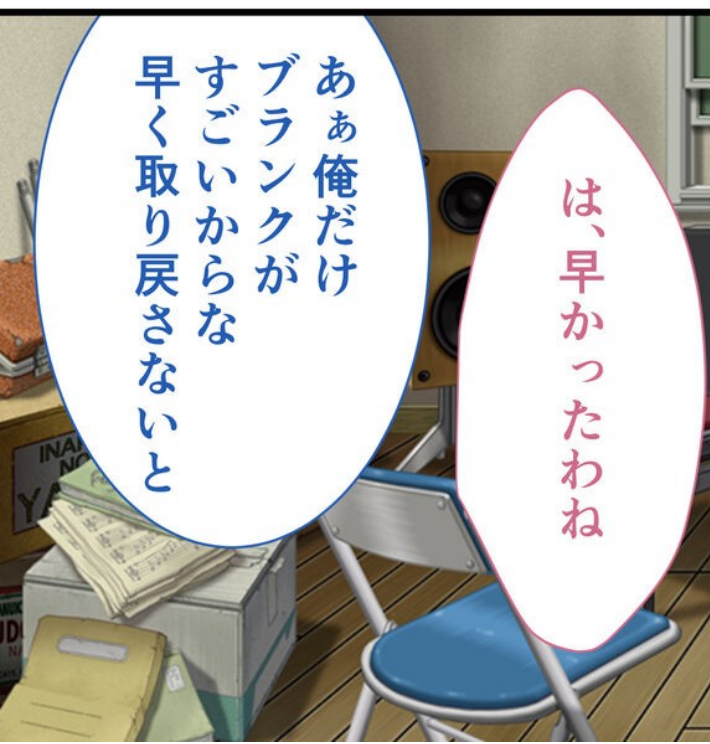


壮太の音色が
また聞けるように
なってる良かった



ねえお姉ちゃん…
私もういいのかな？

思いを
伝えても…



ああ俺だけ
ブランドクが
すごいからな
早く取り戻さないと

は、早かったわね



よしきっ



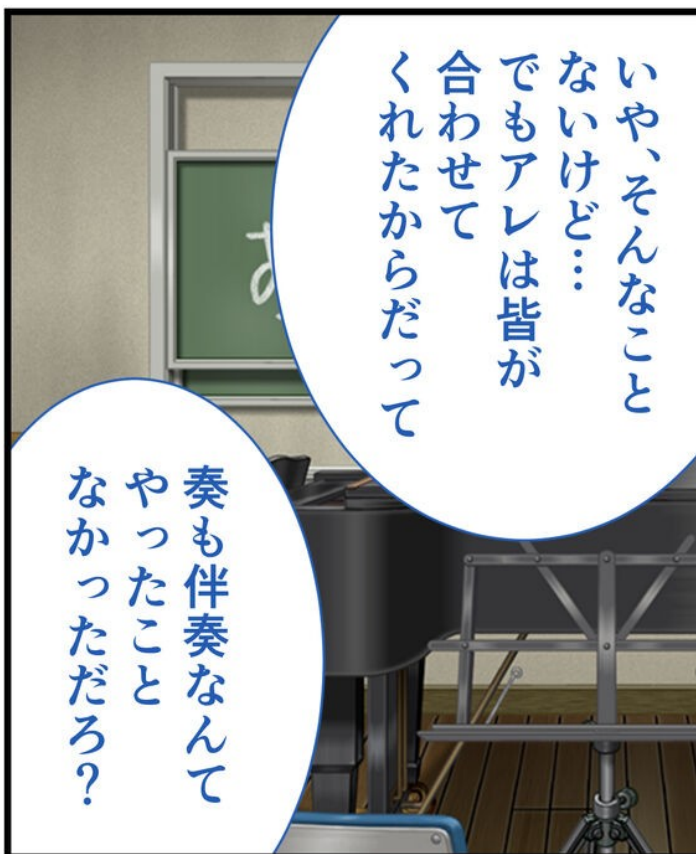
お疲れ



お前って……



でもこの前の演奏
相変わらず
素敵だったわよ



いや、そんなこと
ないけど……
でもアレは皆が
合わせて
くれたからだって

奏も伴奏なんて
やったこと
なかっただろ？



俺の演奏だけは
素直に
ほめてくれるよな

な、何よっ！
いいものを
いいって
言ってるの！？

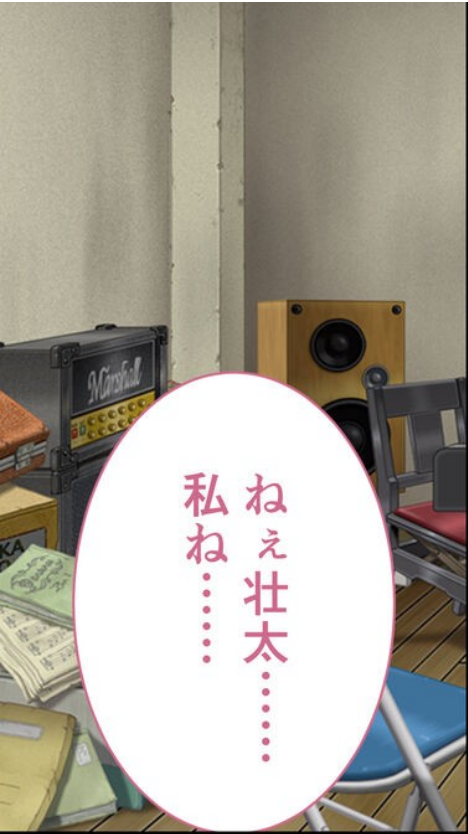


あんまり
意識しすぎる
なよ

え？



まあね……でもずっと
おねえちゃんのを
聞いてたから



ねえ 壮太……
私ね……



壮太……



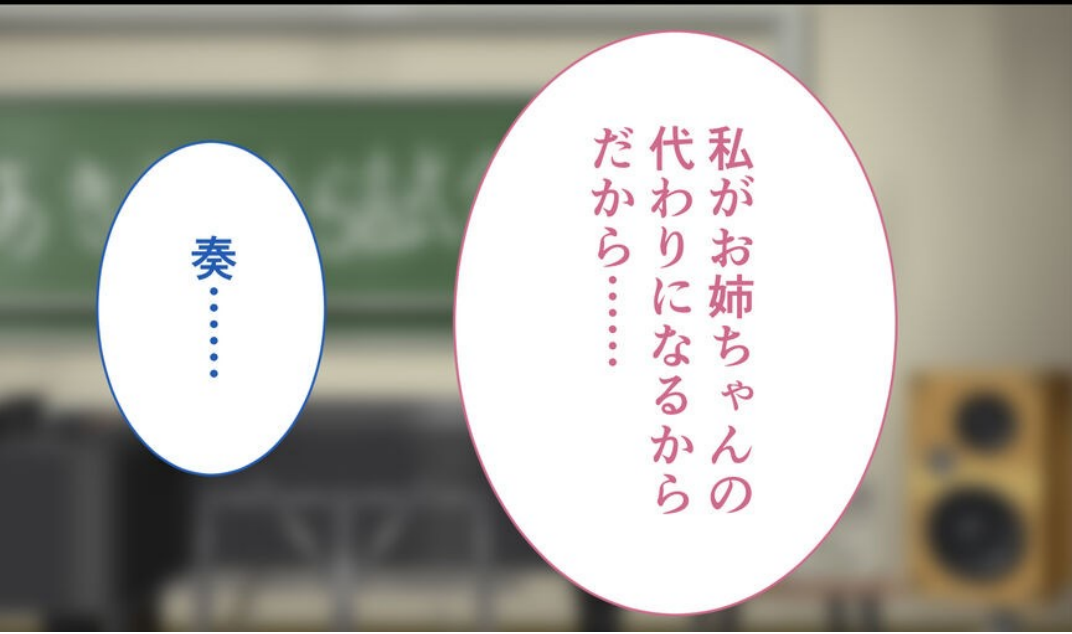
奏の音
俺は好きだから

奏の演奏は
確かに
すごいけどさ



ア
ン
タ
の
事
ず
っ
と
……

す……



奏……

私がお姉ちゃんの
代わりになるから
だから……



ん……何？

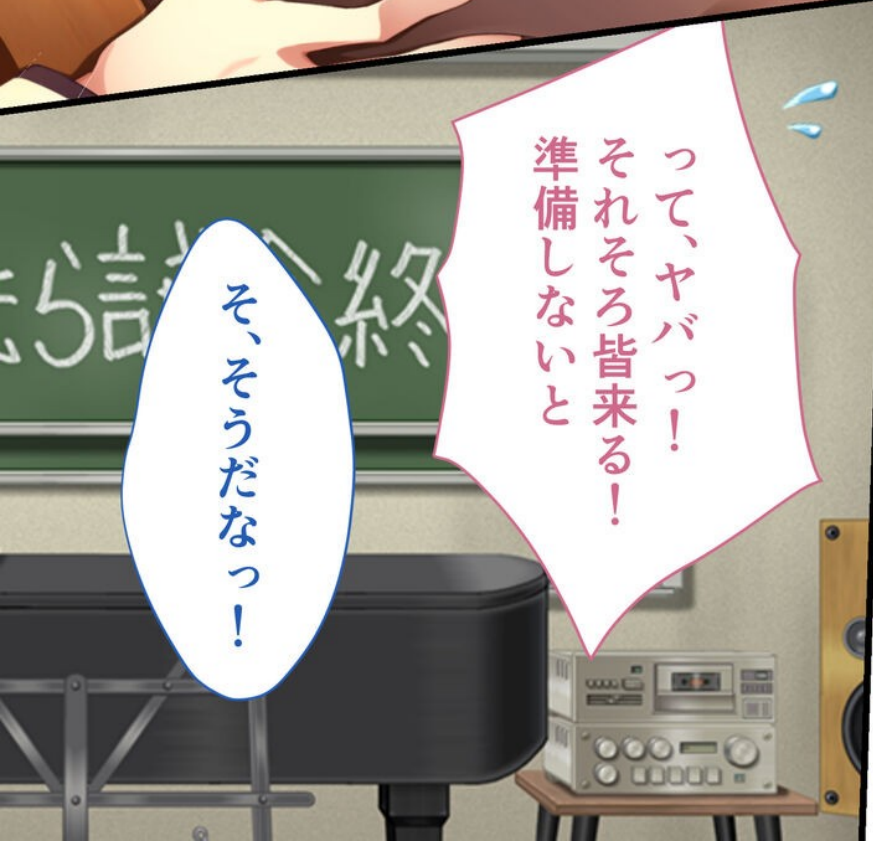


しん
ん
う
う
VV

しん
ん
う
う
VV

しん
ん
う
う
VV

しん
ん
う
う
VV



って、ヤバっ！
それそろ皆来る！
準備しないと

そ、そうだなっ！



奏、いったのか？

う……うん……

うん



え、ええ……

ああまあな

アレ？
二人とも早いね！



遅く
なっちゃった〜！
ガッツ



お、おう！

……

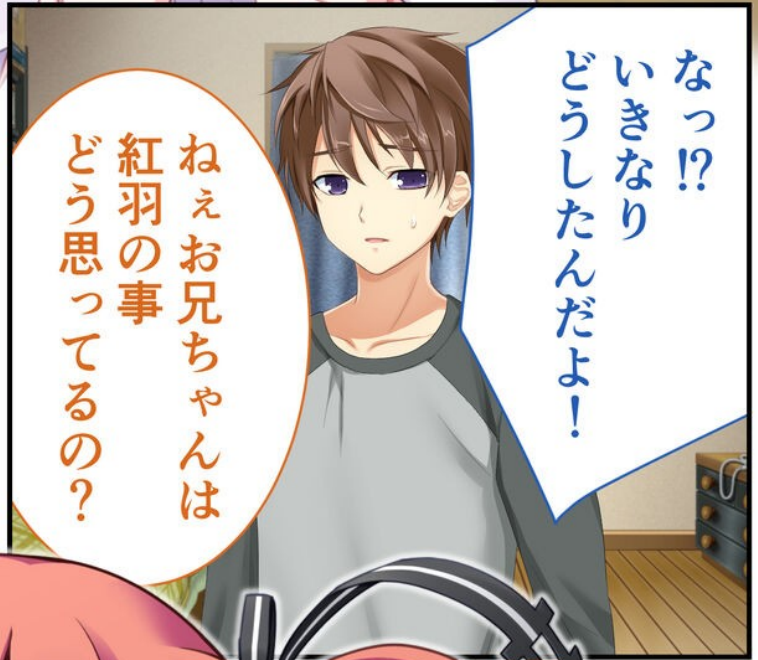
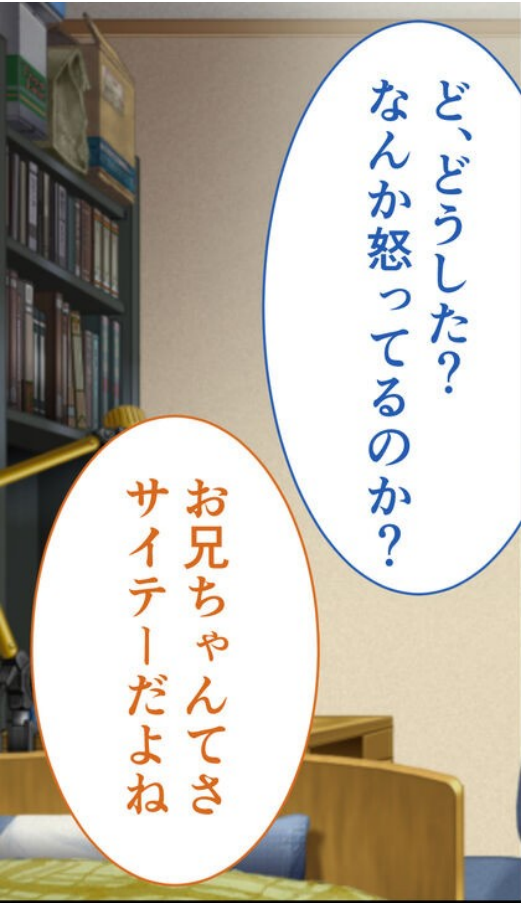
ほ、ほら！
早く準備
しちゃいませよ！



はあ〜

ガ
ツ







あ……
お兄ちゃん……



ねえ
お兄ちゃん……
シよ……



んうう……
だつてえ……

お兄ちゃんと
こういうこと
できるの
嬉しいんだもん……

いつもよりココ
硬くないか？



ほら……
見て
お兄ちゃん……

く……紅羽……
お前……



こんなに濡れちゃってるの……

お兄ちゃんの
ココに欲しいよお……

でも……
それは……

ダメなの……？

でも……紅羽……
初めては
お兄ちゃんにとって
決めてたの





お兄ちゃんの…
全部入っちゃった……
お腹でお兄ちゃんのが
ドクドクしてるの
わかる……



優しくするから
んっ……

あああっ……！

じゅわん
じゅわん



ひゃあああっ！

紅羽っ！

じゅわん
じゅわん
じゅわん



じゅわん
じゅわん



紅羽…俺……

いいよ
お兄ちゃん……

もう
痛くないから……
好きなように
動いて……



お兄ちゃんのが
紅羽のナカ

出たり入ったりして
んうううっ!

紅羽っ!
気持ちいいっ!
俺もうっ
止められないっ!

紅羽もっ紅羽も
気持ちいいのおっ!

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ



あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ



いいよっ
我慢できないなら
このまま
紅羽のナカにっ!

紅羽っ!
あああっ——

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ



あゝあゝあゝ

ひゃあああっ!
お兄ちゃんの中
でドンドン
大きくなっつ

くっ!?!
紅羽っ俺っ……

あゝあゝあゝ



お兄ちゃんの……

ぶんぶん

はあ

はあ

いっぱい
流れ込んで
きたあ……



こんなんじゃ
ダメ……

AMAN



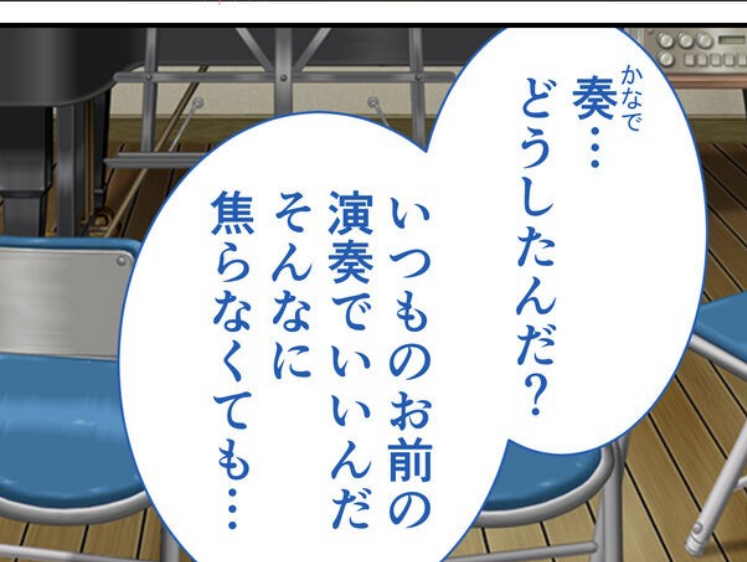
もっと……
お姉ちゃんみたいに
弾けるように
ならないと……

つづく



お姉ちゃんの音に
近づかないと

もっと…もっと



かなで
奏…
どうしたんだ？

いつものお前の
演奏でいいんだ
そんなに
焦らなくても…



あつ、ごめんなさい
もう一度
最初から…



ごごめん
なさい…



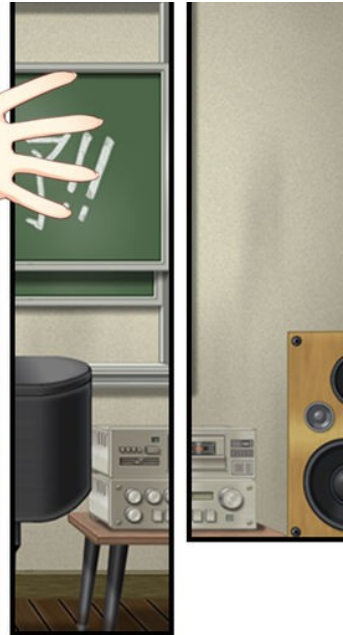
焦って
なんかないっ!!



奏…？



あり！
ねえ見て
これっ！



なつめ
棗の弾いた
音源



こんな所に
あったのか

おお！
これは…



棗が弾いた
音源があったんだ！

…えっ



見ろよ奏！

どうしたの？
早く掃除
終わらせちゃい
ましよ



な、奏も…

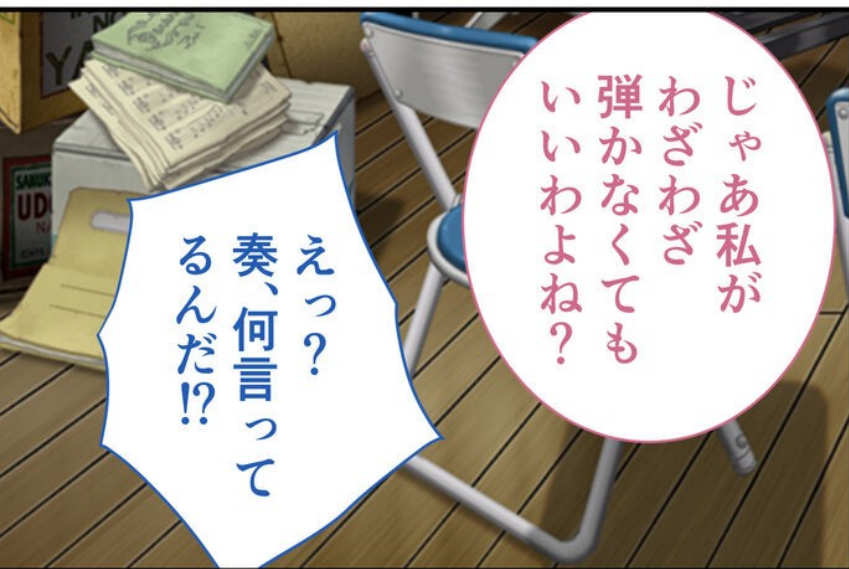
その音源
今、私たちが
練習してるのと
一緒の曲よね？



貴重な品発掘

ねー！
あんまり録音とか
してなかったからね

たまには
聴いてやらないと
奏も怒るだろうし



えっ？
奏、何言っ
てるんだ!?

じゃあ私が
わざわざ
弾かなくても
いいわよね？



え…ああ
そうだけど…



私

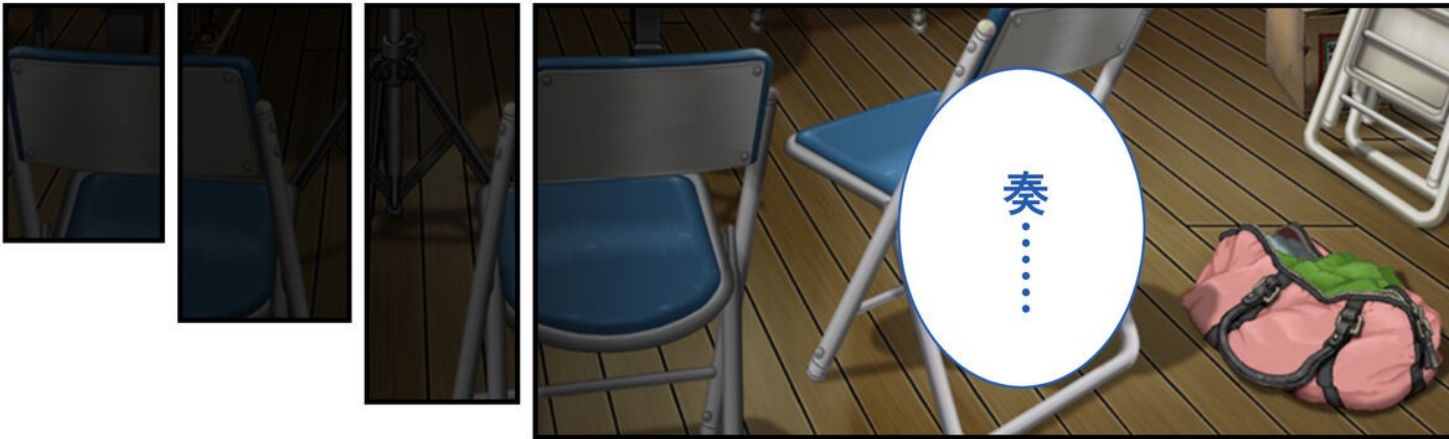
カルテット
抜けるわね



何か……
気に障った？

奏ちゃん……
どうしちゃった
のかな……？

おい奏っ！



奏……



奏……
どうしちゃったん
だよ



……せっかく
音も一体に
なってきたのに……

奏ちゃん
今日も来ないね





は〜歌った
歌った!

少しは
気晴らしに
なった?

ああ、かなり
気晴らしに
なったよ!



ねえ…壮太

壮太が
今、一番好きな人は
誰?



えっ……?!

そ、そんなこと
いきなり
聞かれても……

持論だけど



それは……



いつも心の隅で
気にかけてる人が
本当に好きな人だと
思う

いつも心の隅で
気にかけてる人……

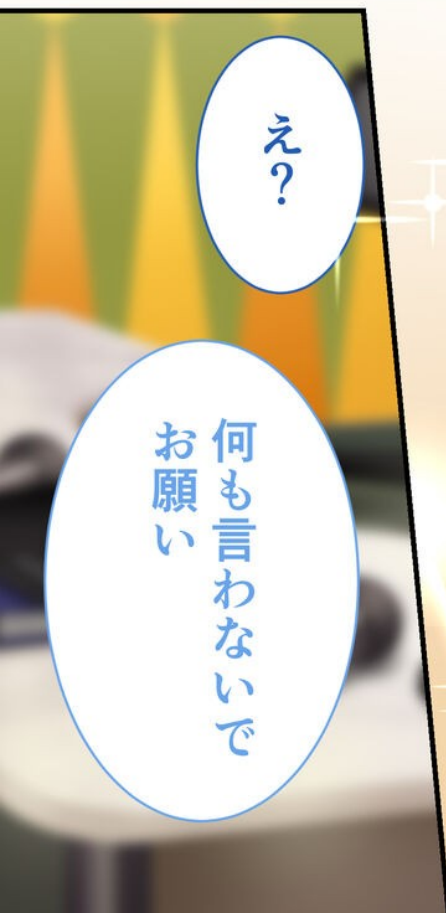


ねえ壮太……
お願いがある

ん？



今思い浮かべたのが
私だったらいいな……



え？

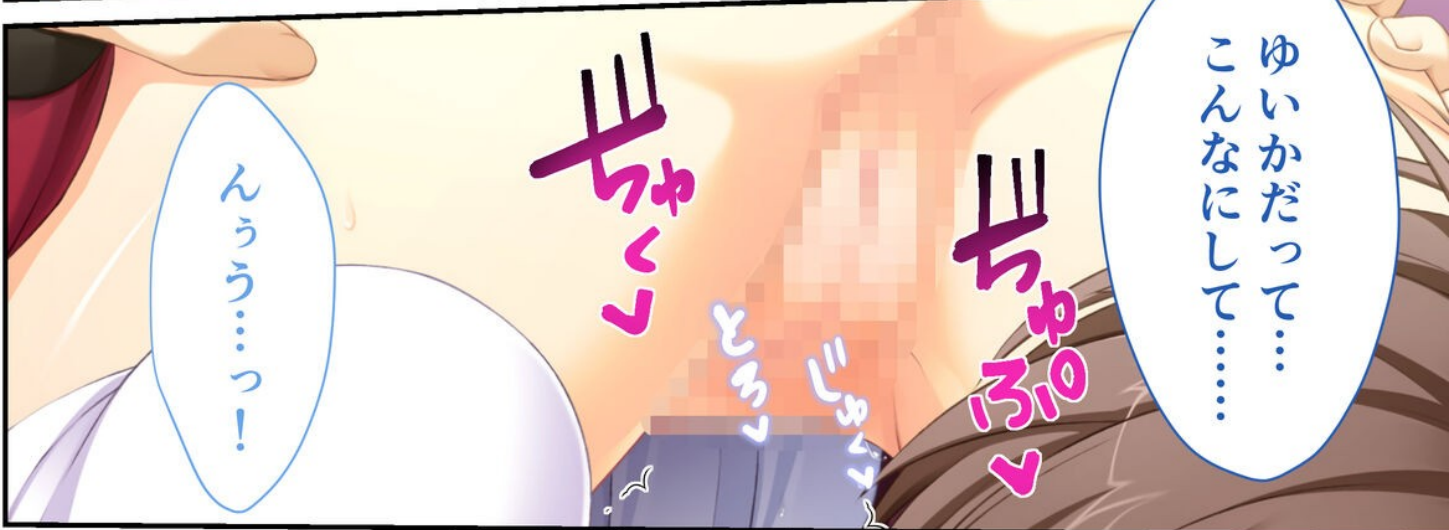
何も言わないで
お願い



シて……



壮太の
もうこんなに
硬い……



ゆいかだって…
こんなに…

んうう…っ!

ちゅく

ちゅく



んうううっ!
このっ……



だめっ…
そんなに
しちゃっ…

こんなに気持ち
よさそうなの!?

あ

ちゅく



ゆいか…

はあ

はあ

治まるまで
シよ…



いっぱい出たのに
壮太のまだ硬い…

ジュジュ



あ

あ

んうううっ!

壮太っ!
壮太っ!

ゆいかつ
そんな、いきなり
激しくっ!

ジュジュ

じゅっ

じゅん

じゅまっ



だつてっ
我慢
できないっ

びび

壮太のもっと
深くまで
入れたいっ!

ハア

ハア



あーあー
あーあー
あーん

ビクニ
ビクニ

ひ

どろろ

ドクン
ドクン

ん



壮太……
ありがとう……

はあ
はあ

おっ
おっ



今日も奏ちゃん
練習来なかったね

ああ…

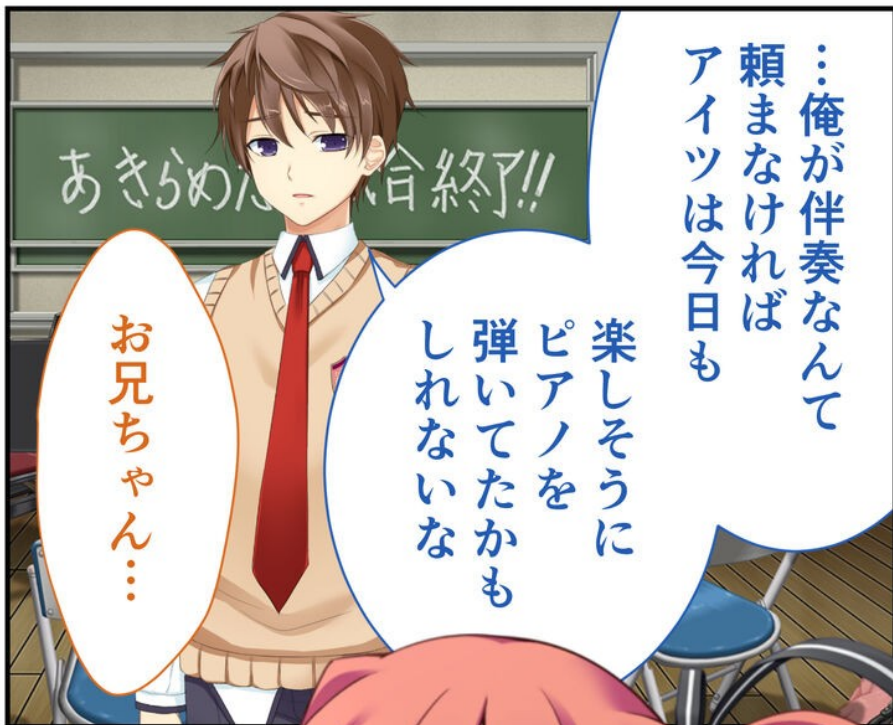


あきらめ



あのね、くれば紅羽
最近気づいたことがあるの

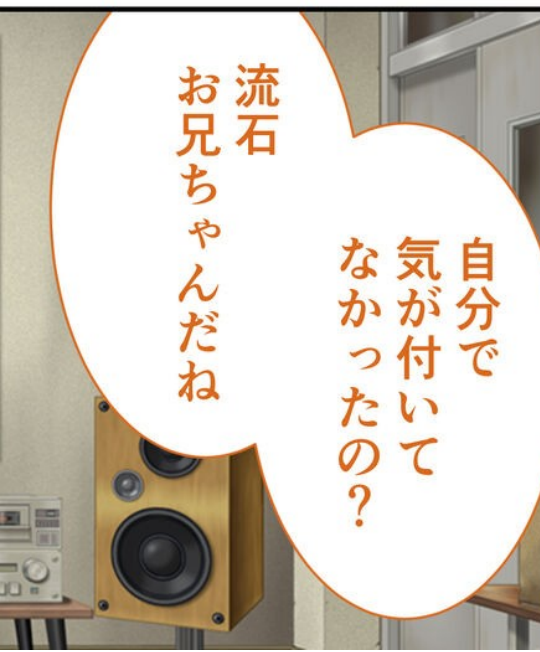
ん？
なんだ？



…俺が伴奏なんて
頼まなければ
アイツは今日も

楽しそうに
ピアノを
弾いてたかも
しれないな

お兄ちゃん…



流石
お兄ちゃんだね

自分で
気が付いて
なかったの？



え？

お兄ちゃんって
いつも奏ちゃんの事
目で追ってるんだよ



きっとこれからも
妹としか
思わないと思う…



紅羽ね…
お兄ちゃんの事
大好き…

でも…お兄ちゃんは
紅羽の事



お兄ちゃん…



紅羽…

お兄ちゃん…お願い…
これで最後にするから…
だから…



来て……

びんぎんぎん



あああつ……
あ兄ちゃんの唇っ
暖かい……っ

あつあつ



いやあつ！
お兄ちゃんのお
ジワルっ！

ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ



すごいな……んちゅっ
奥までトロトロだ……っ
んちゅ

あつあつ
ひゃんううっ！
そんなっナカ
かき回しちゃ
いやああつ！

ぢゅぢゅ
ぢゅぢゅ



いじわるって言うのは
こういうことだぞ……
じゅぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ!!

ひゃあああああつ!!
らめえええつ!
おにひゃつ——



はあ

いかされちゃった……
お兄ちゃんの
口で……



あーあーあー

あーあーあー

びんびん

しゅしゅしゅ



次はお兄ちゃんも
気持ちよくなって……



大丈夫か？

平気……だよ……



紅羽のナカ……
よく締まって
気持ちいいぞ……

えへへっ……
嬉しい……
ねえお兄ちゃん
動いて……っ……

ああ……

ひゃあああつ!

お兄ちゃんの
気持ちいいとこ
当たるのおつ!

こらっ紅羽
そんな男が喜びそうな
セリフどこで
覚えたんだ?

違ううっ!
気持ちいいから
勝手に……
あああつ!

紅羽がエツチな
妹だって分かったら
うぐっ!

いいよっ!
お兄ちゃん
紅羽の中に
どぴゅってえ——

お兄ちゃん…
大好きだよお……

ひゃう
んしゅ
んしゅ

ひゃう
んしゅ
んしゅ

ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ

ハ

ハ

ずっと
ずーっと……





そうか…
俺が…



でもこれからは
お兄ちゃんとして

紅羽…



俺が本当に
好きなのは

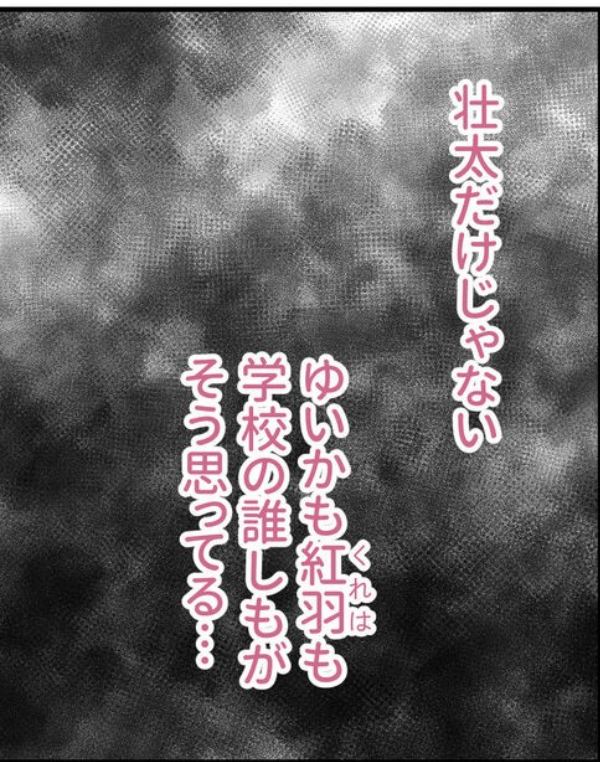
つづく



かなで
奏……お前の事が……



やっと気が付いた……
俺は……



壮太だけじゃない

ゆいかも紅羽も
学校の誰しもが
そう思ってる……



そうた
壮太が
隣にいて
欲しかったのは
私じゃなくて奏
なつめ



どうして
奏が死んで
しまったの？

誰からも
期待されて
愛されてた
奏じゃなくて



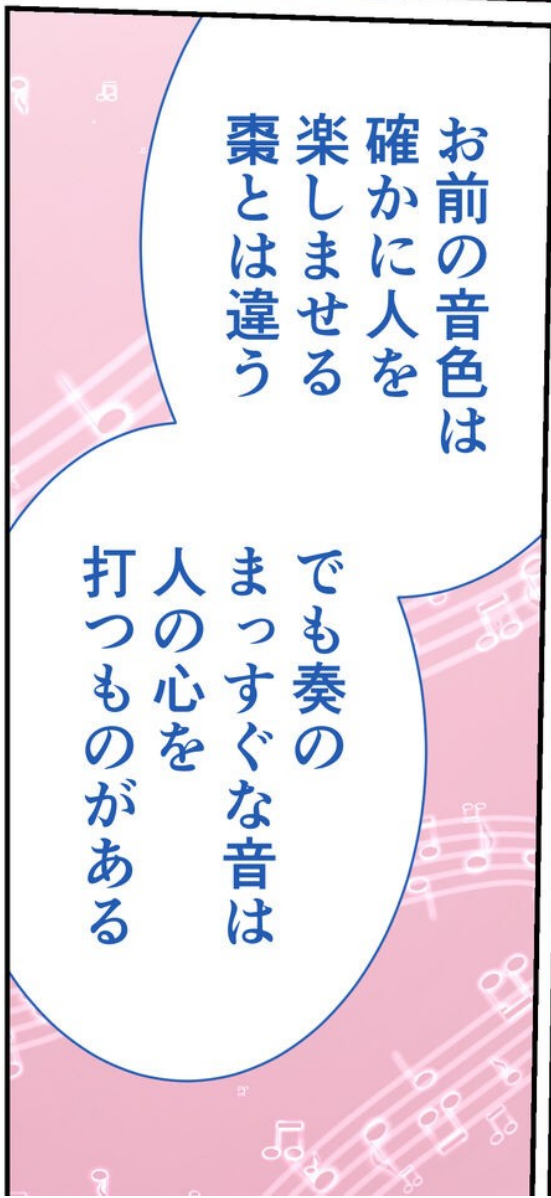
壮太っ……
どうして
ここに……

好きなんだ



どうして
私がつっ!

奏!



お前の音色は
確かに人を
楽しませる
楽とは違う


でも奏の
まっすぐな音は
人の心を
打つものがある



えっ?

お前は
楽になんて
ならなくていい

みんなそう
思ってる




もう楽に
なろうとなんて
するな



俺は奏に弾いて
ほしいんだから

壮太…



私…
お姉ちゃんに
ならなくて
いいの？

私のままで
いいの？

当たり前
だろ？



私……今まで
ずっと苦しかった……
お姉ちゃんの
マネしなきゃって

お姉ちゃんに
ならなきゃって



馬鹿だな……
奏は奏だろ？

壮太……

私……
やっぱり

壮太が好き
大好きなの……





壮太っ…
くすぐったい

それにコレ
私ばかり
攻められて
ズルい…

えっ?

はっ はっ



こうなの？

ん…これなら
一緒にできるわね…



えっと
じゃあ…



ちゅくくくっ…

うわっ!?!
奏っ!
そこっ…くっ!
くすぐったいっ!

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



ひゃああああっ!

ひゃん
ひゃん
ひゃん
ひゃん
ひゃん

ひゃん
ひゃん
ひゃん
ひゃん
ひゃん

いつぱい出た…
これが壮太の
匂い…なのね…

壮太…
気持ち
よかった?



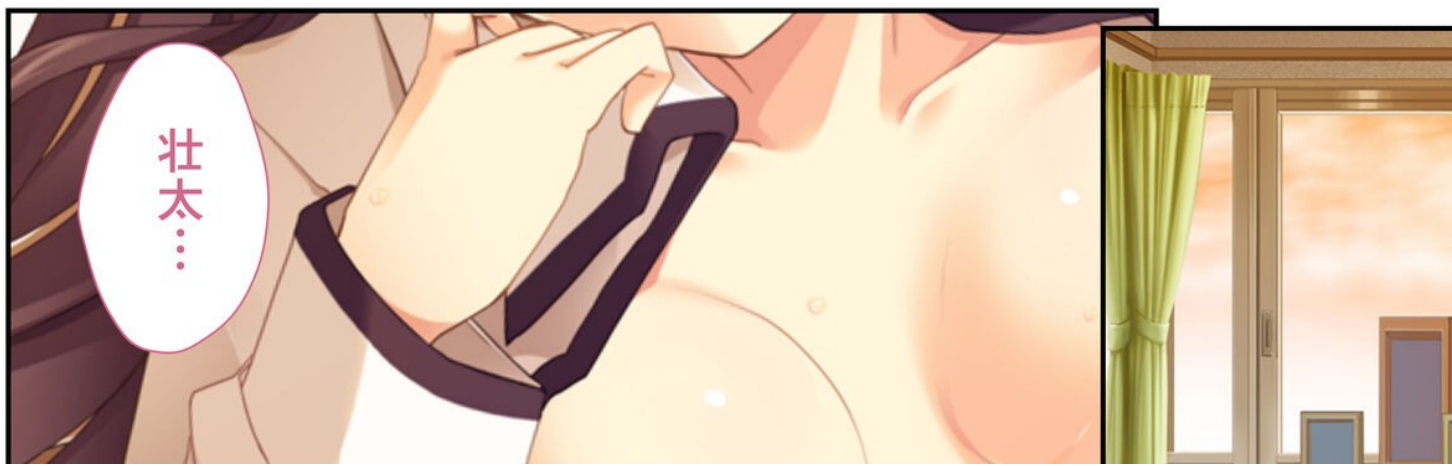
うん…
でも
俺ばっかり…

じゃあもう
少ししたら…
その…シよっか…

私まだ
心の準備も
出来てなくて…

アタタタ

奏…



壮太…



ずんずんずん

んはああつ……!!

痛いかな?



いいよ……

来て……

まっまっ
どきどき



ズツ

ああつ!



だから……
動いて……

優しく
する……



大丈夫……
壮太と……
繋がれた事の方が
嬉しいから……



壮太のが
奥までっ…

初めてなのにつ…
こんなにな…
良いなんて…っ
んううっ！

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ



奏っ！
好きだっ！

大好きだっ！

壮太っ…
私も大好きっ！
これからも
ずっと…

あああっ
うぐっ奏っ！
もうっ！

来てっ壮太っ
思いっきり出してえっ！
んひゃああああっ—

ぐっほっ
ぐっほっ

ちゃん
ちゃん

んんんん
んんんん



壮太…
大好き……



あぁい
あぁい
あぁい

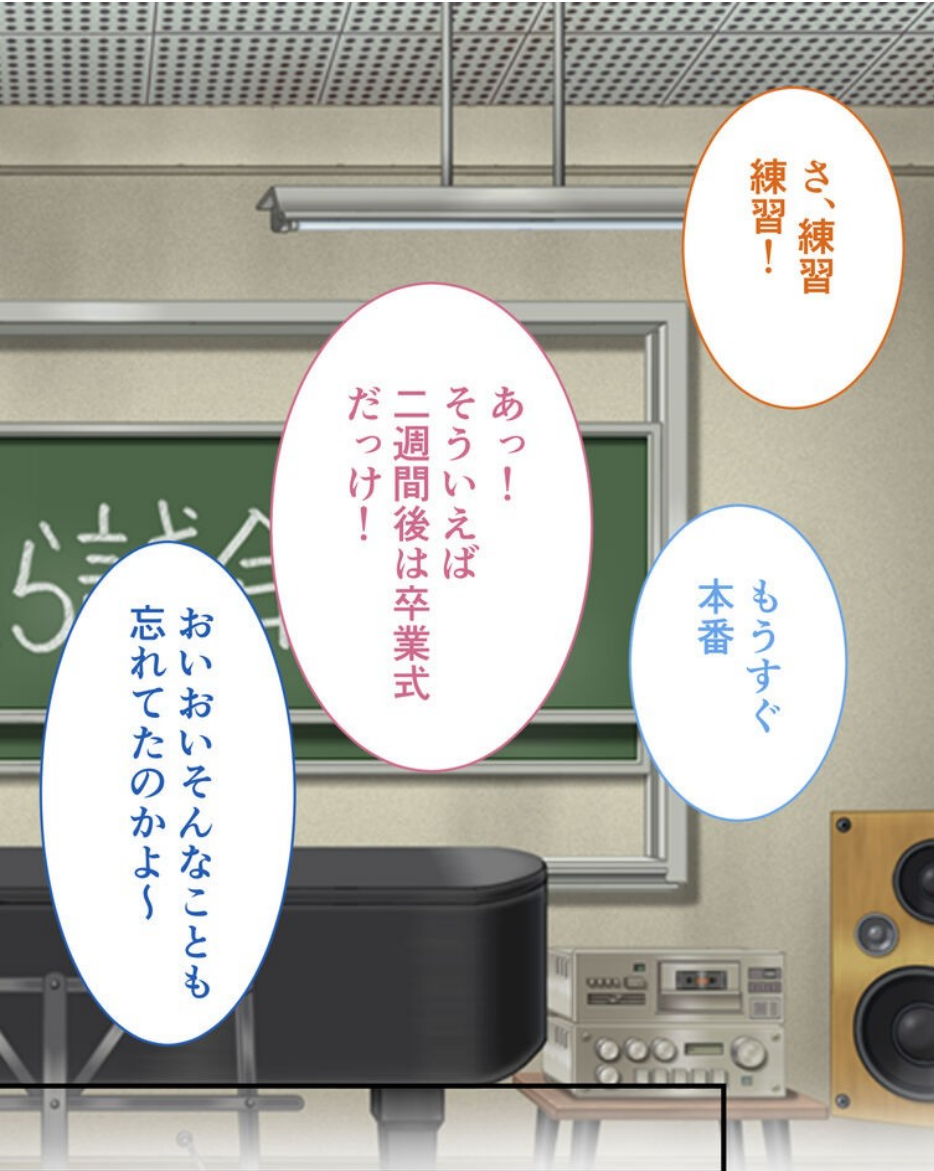
びん
びん
びん
びん

びん
びん

びん
びん
びん
びん

びん
びん
びん





さ、練習
練習！

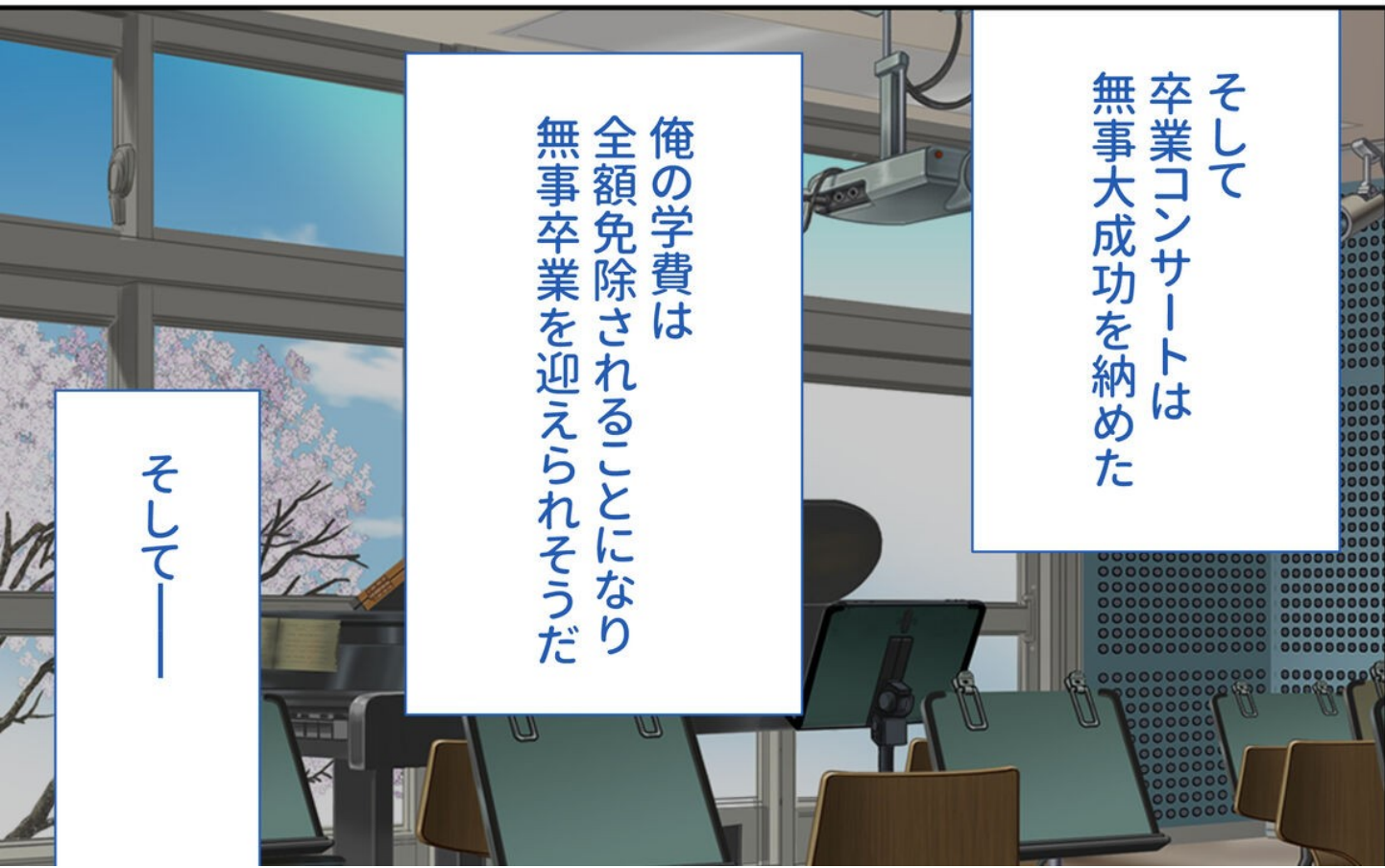
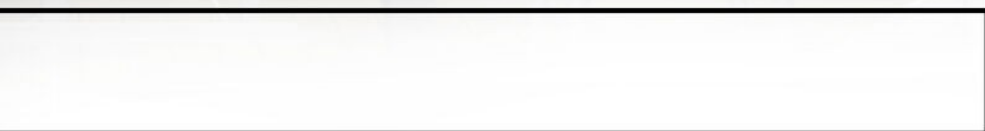
あっ！
そういえば
二週間後は卒業式
だっけ！

もうすぐ
本番

おいおいそんなことも
忘れてたのかよ！



うん！



そして
卒業コンサートは
無事大成功を納めた

俺の学費は
全額免除されることになり
無事卒業を迎えられそうだ

そして――

もう…卒コン後に
こんな場所で…

壮太って
変態だったの？

まあ…
そうかもな

ぬほっ
ぬほっ
ぬほっ

くっ
くっ
くっ

まったく
しょうがない
恋人ね…んちゅぷ…

あぁっ！
奏、気持ちいいっ…

いいわよっ
らひてっ…
んちゅるるるっ！

うあああっ！

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ぬほっ
ぬほっ
ぬほっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

んちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



いっ

びゅっ
びゅっ

ド
びゅっ

ああでも
まだ……

んはあ…
こんな
出して…

試験終了



ひやあ
あああっ!?

びゅっ
びゅっ

ド
びゅっ



嘘っ！
何でまだ…
こんなになっ

奏の事も
気持ちよく
しないと
思っ…



それにこんな
かわいい彼女が
目の前にいるのに

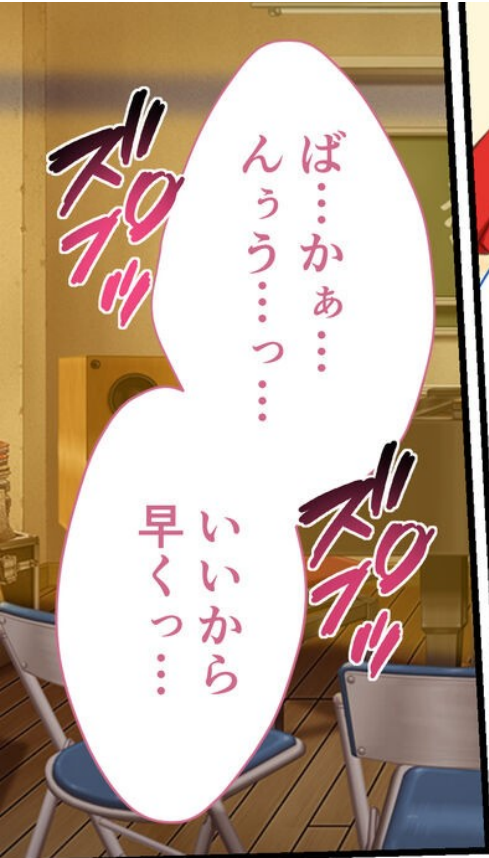
一回で終わるわけ
無いだろ？

んううっ！
もう壮太ったら…
ひゃあああっ！



奏っ
声、抑えてっ
誰か来たら…っ

んううっ
そんなことっ
いわれてもおっ！



ズッ
ズッ

ば...かあ...
んうう...っ...

いいから
早くっ...

ズッ
ズッ

奏のナカ
いつもより
締まる...
声我慢してるから？

んうっあっ...
んくっ
ひやあああっ！

ズッ
ズッ

もうっ...
だめえっ
壮太っ！

あー

あー

奏っ！
俺もっ！

ズッ
ズッ
ズッ

じゃあ奏も
一緒に...っ

んうううっ
あああああっ！

あー
あー

だっ
だっ

あー
あー
あー
あー



ああ俺もだ……

壮太……
大好きよ

すあ
たあ



どうしてだ？

ねえ私
お姉ちゃんに
恨まれてるかな？



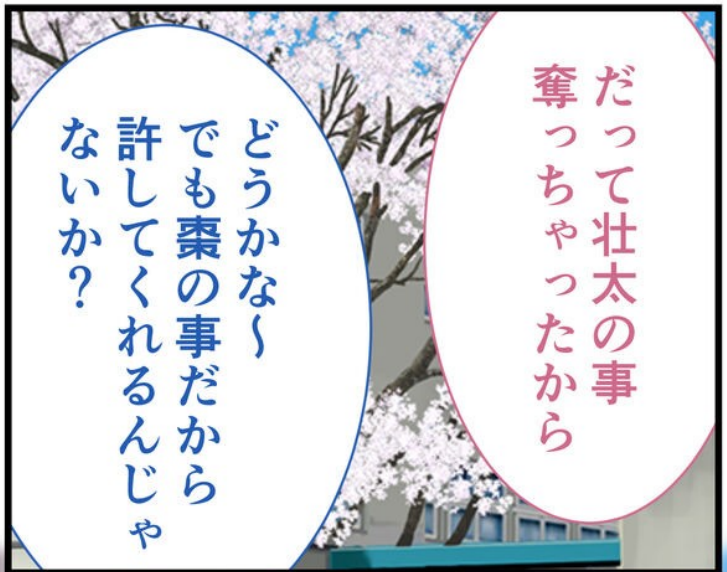
はーい！

二人とも
先にいってるよ！



ね、壮太…

うふふ
そうかも



どうかなく
でも稟の事だから
許してくれるんじゃないか？

だって壮太の事
奪っちゃったから





とき



俺も



世界で一番
大好きよ



宇宙一
大好きだー！

棗、これで
よかつたん
だよな？

俺奏の事絶対に
幸せにして
見せるから



天国で
見守ってて
くれよ

終わり



大人の禁SEXY絵本

©Alcot 八二カム